



獣の棲家

息子を虐めた不良に
堕とされた女教師

R18
ADULT ONLY
成人向け作品につき
18歳未満閲覧禁止

獣 の 棲 家

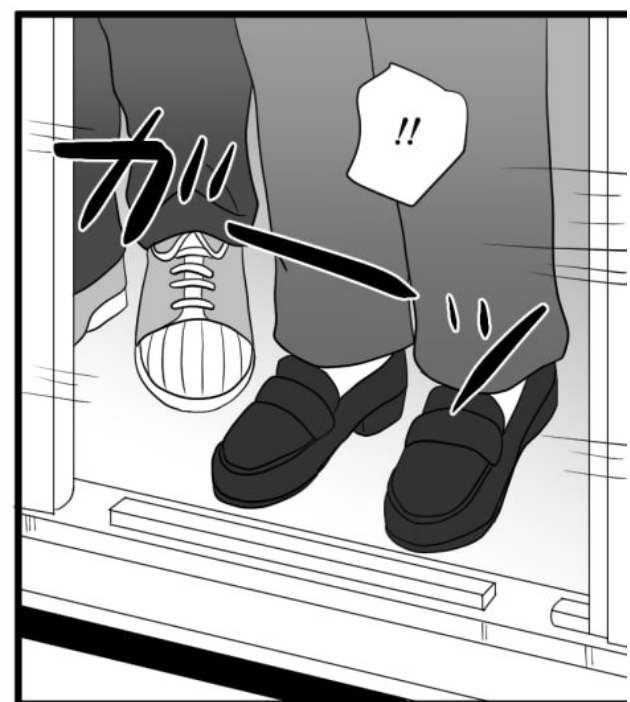
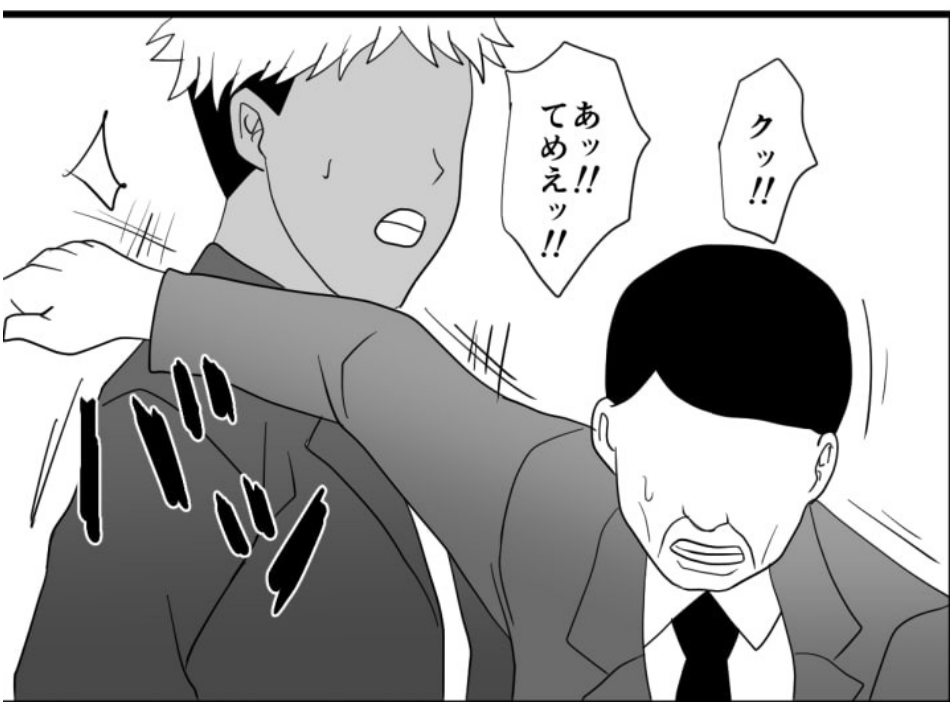


R18

ADULT ONLY

成人向け作品につき
18歳未満閲覧禁止





助けてくれて
ありがとう…

まさか間宮君に
助けてもらうなんて
思ってもみなかった…

なんだ…
ケツ触られてたの
先生かよ

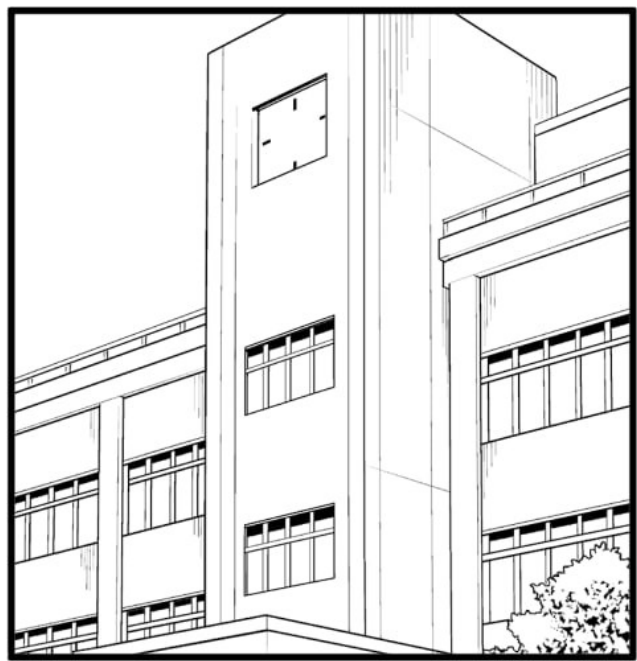
あの痴漢野郎
変わった趣味
してんだな

お礼言ってるのに
見も蓋もないこと
言うわね…

間宮亮
私が受け持つクラスいちの問題児
何事にもやる気がなく
授業も頻繁にサボる生徒







なんだよ先生
急に呼び出して

痴漢から助けたお礼が
どうしてもしたいとか？



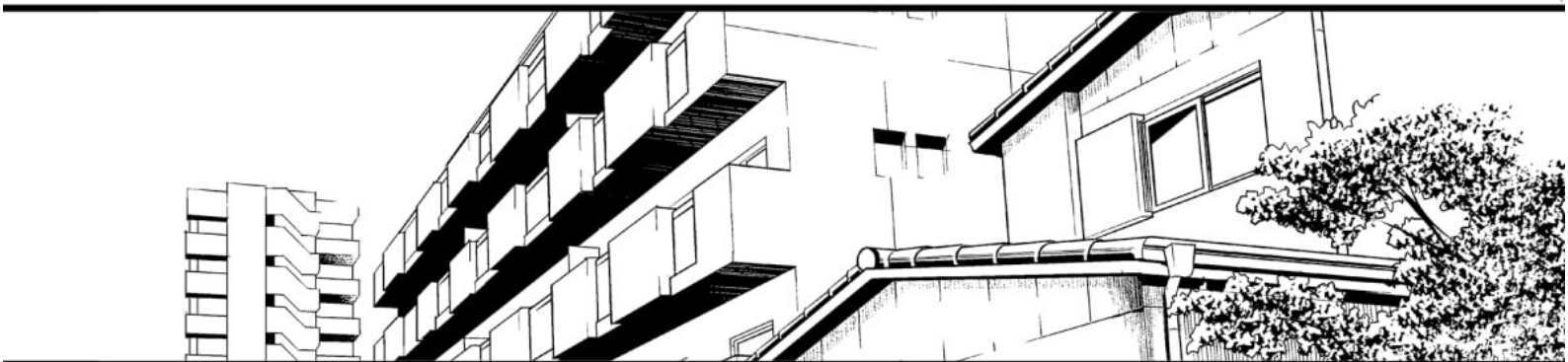
間宮君：
あなたうちの子に母親が
担任だからテストで
良い点つけてもらってるとか
言ったそうね？

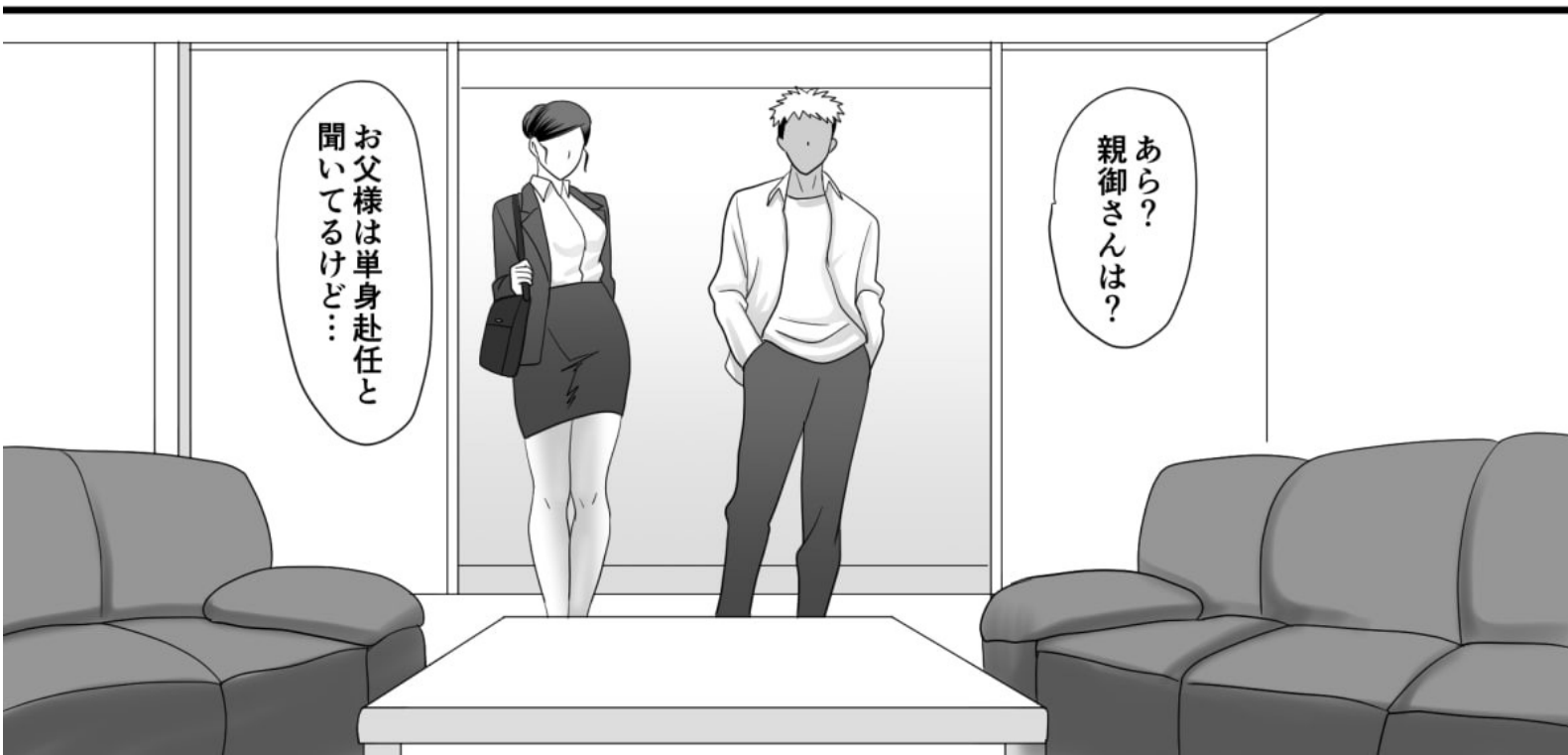
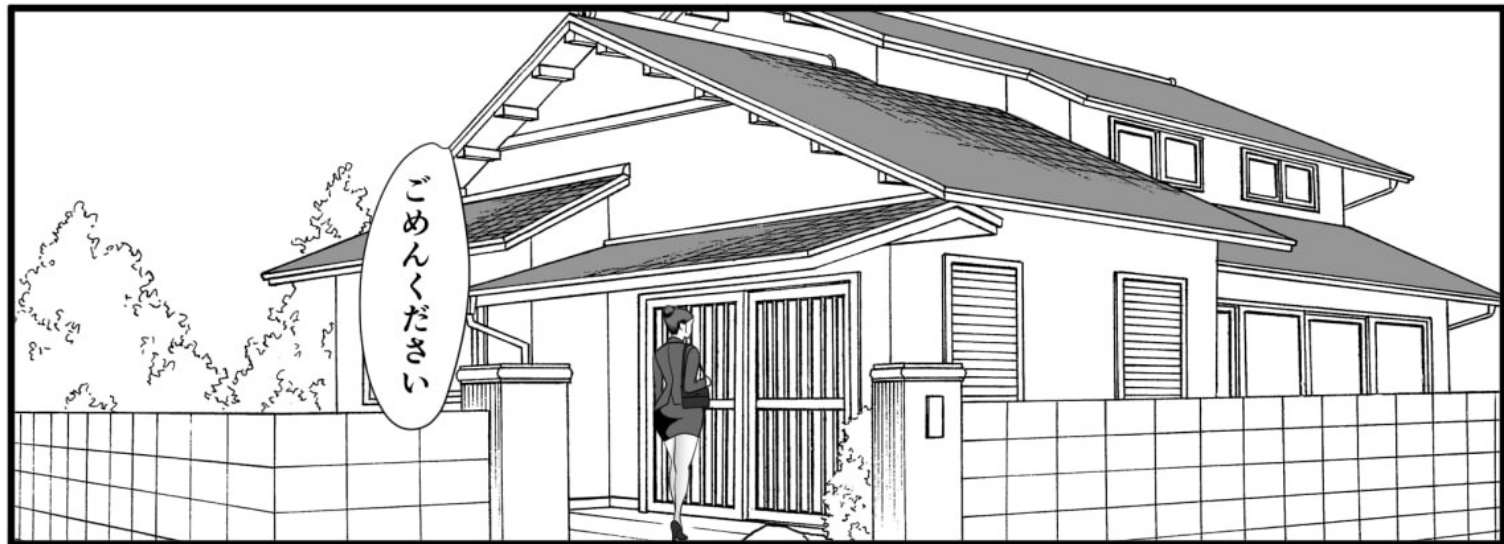
あ…



いくら親子だからって
先生がそんなことすると
本気で思ってるの？









息子の担任が
話があると云ってるのに
すっぱかすなんて…



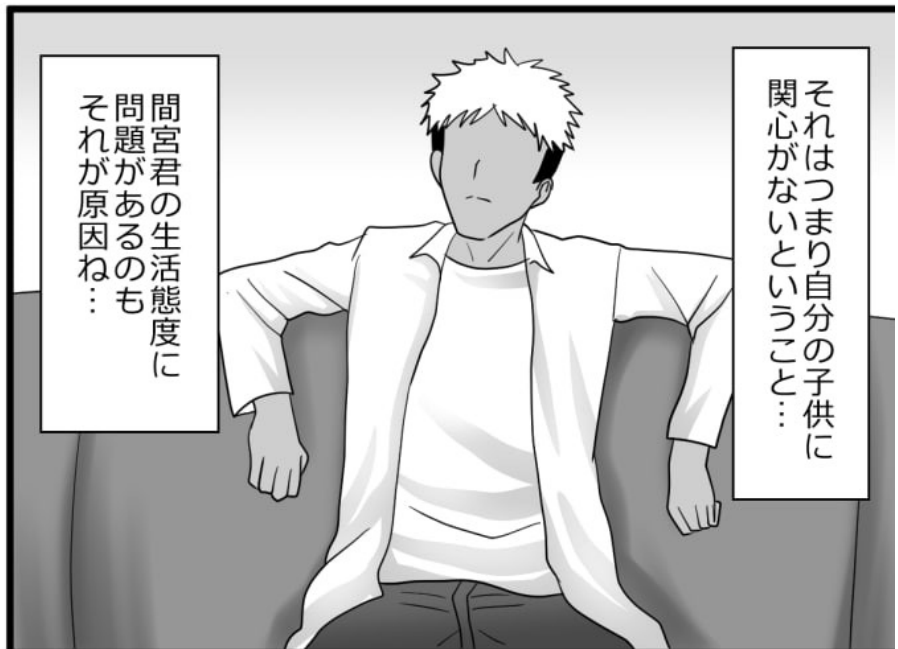
一応おふくろには
先生が来ること
言っといたけど…

また男のところにでも
いるんじゃないかな

ギ
ニ
ツ



これで分かったら？
誰も俺のことなんて
気にしてないんだよ



それはつまり自分の子供に
関心がないということ…

間宮君の生活態度に
問題があるのも
それが原因ね…



俺の気持ちねえ…



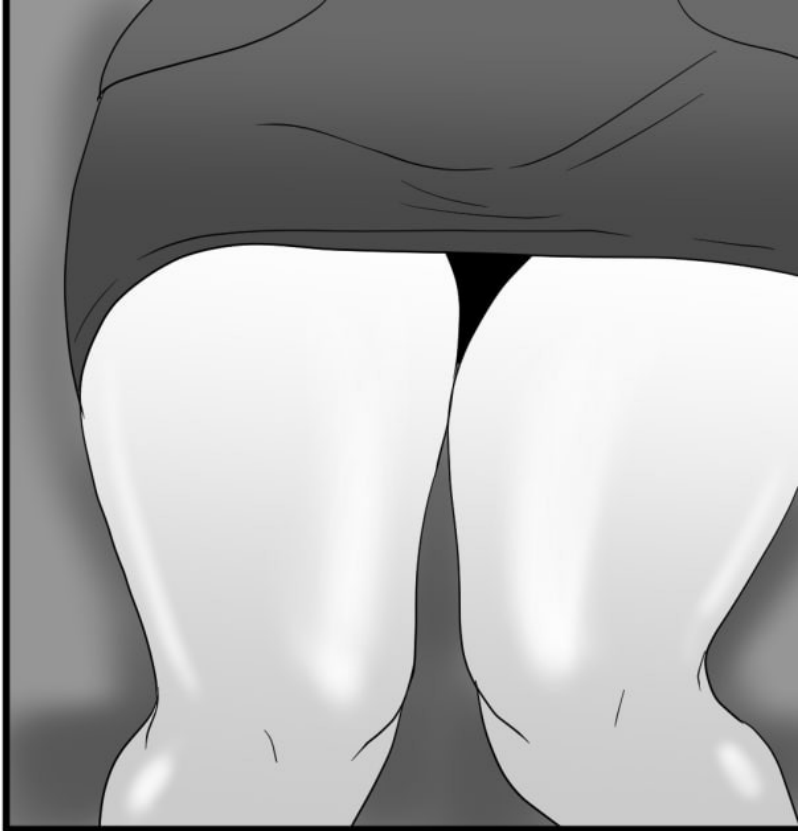
だからもっと
間宮君のこと
知りたいの

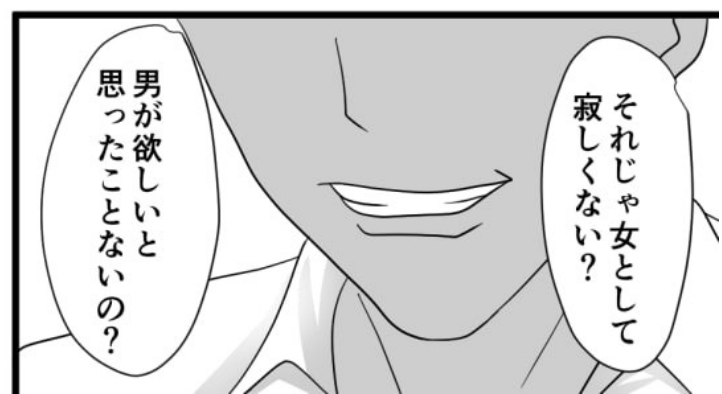
昨日痴漢から私を
守ってくれたわよね？
あの時思ったの
私全然間宮君のこと
分かってないんじゃないかって…

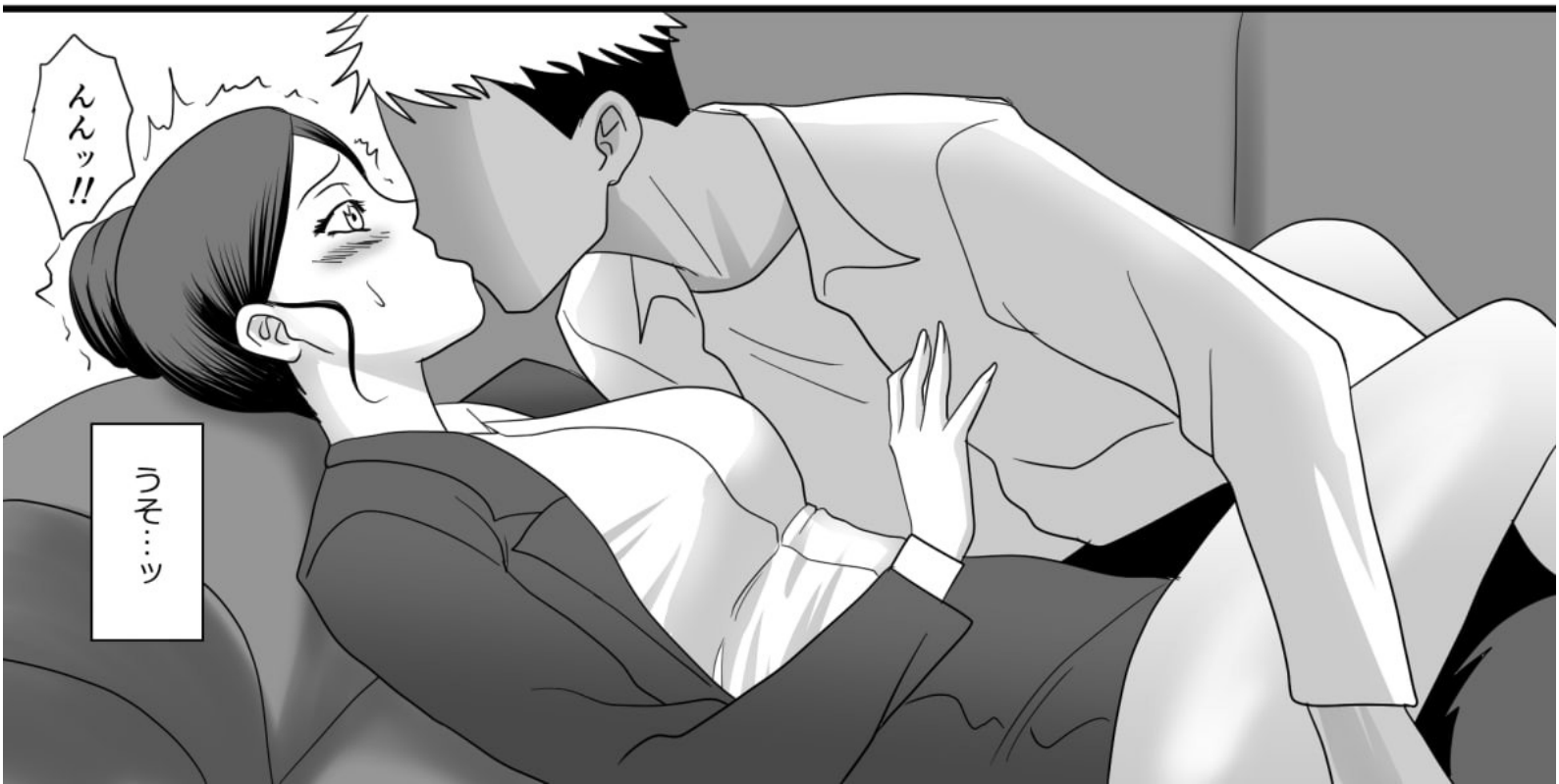


そんなことないわよ
少なくとも先生は
間宮君のこと気にかけてる
だからこうして
来たのよ

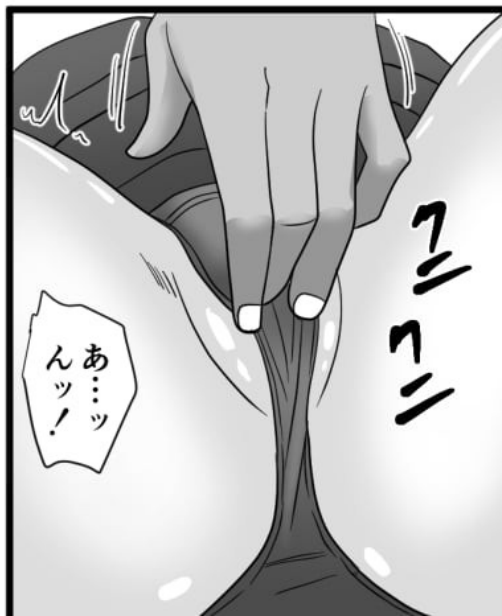
ねえ…間宮君
あなたがどんな気持ちで
毎日を過ごしてるのか
先生に教えてくれない？

















私…なんてことしてるの…
見るだけでも躊躇いがあつた
教え子のペニスを口に含んでる…

ん…ん…ん…

クッ

クッ

ふ…
ん…

クッ

快楽を得るためだけに
作られた輪の中で…
互いの性を味わいながら
理性と尊厳が溶けていく…

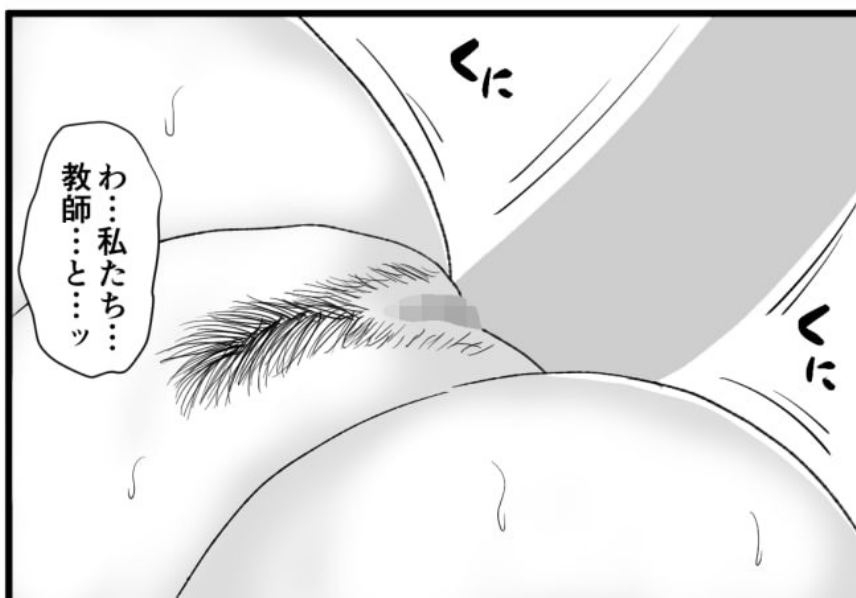
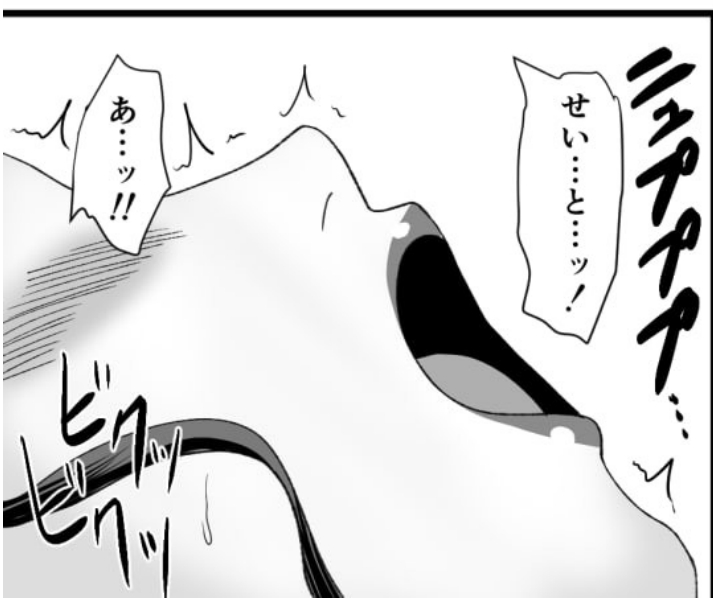
クッ

クッ



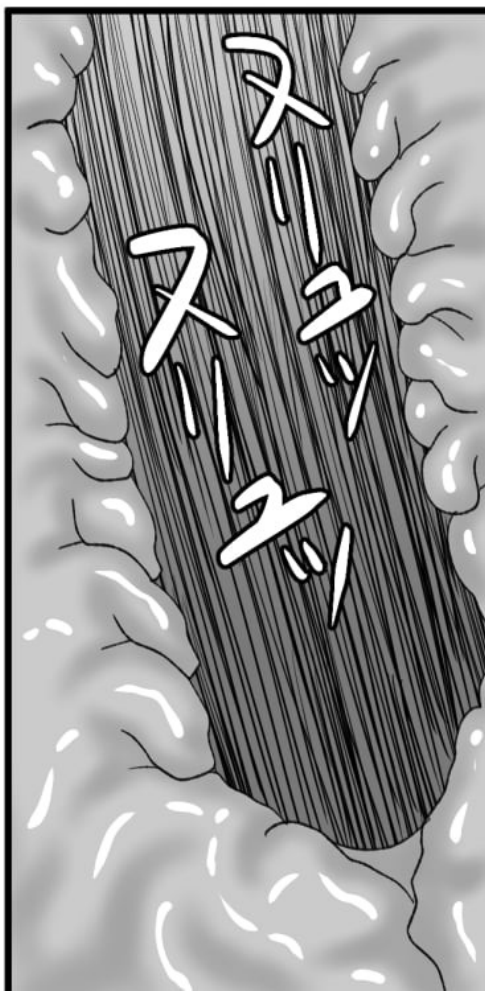














抵抗できない…
そう思った瞬間から
拒絶の意思が
霧散していく…



頭の中では
拒んでいるのに
口からは甘い声
が出てしまう…

あっあッ♡
あッやッ♡

求めているはずの快感に
体が正直に反応して…



おっ
イイ声
出てきたな

あッ♡

もつと警戒すべきだった…
相手はまだ子供だと…
そう思ってた密室で二人きりになる
状況を許してしまった…

あッ♡

はんッ♡

教室では毅然とできた…
厳しく叱ることも
距離を保つこともできた…

あッ♡

あうッ♡

けれど二人だけの部屋の中で
性器を結合させてしまえば
教師と生徒という関係など
男と女という現実の前では
何の意味もなかった…

先生がフェラで
抜いてくれたおかげで
長続きするよ…

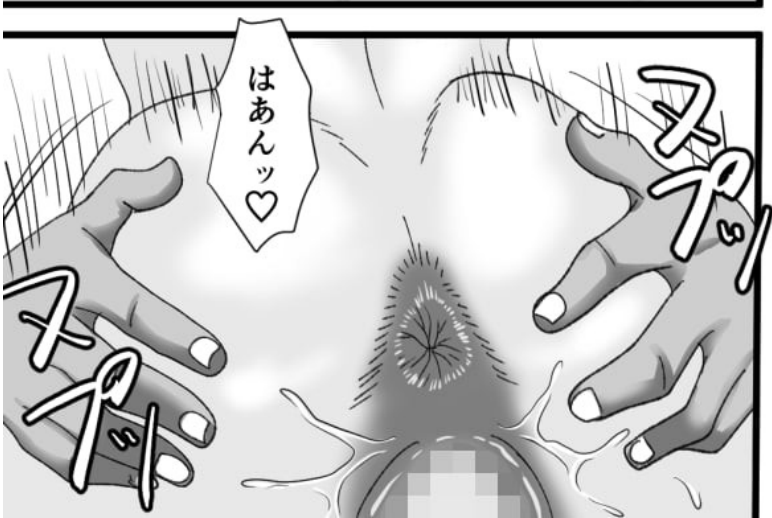
こんなはずじゃなかった…

先生のオマンコ
俺のチンポの形に
してやるからな…

あッあッ♡
そんな…ッ

早く終わらせるためのフェラが
却って長時間の挿入を許すハメに
なってしまうなんて…

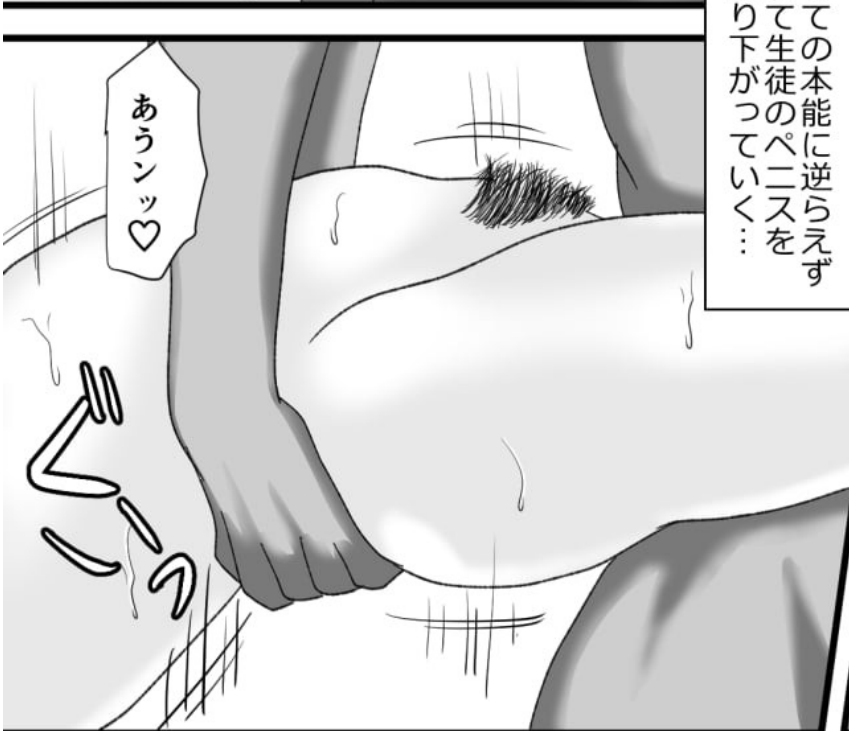
ダメ…
こんなの…♡





誰にも流されない
自分でいたかった...

私はもっと
強いはずだった...

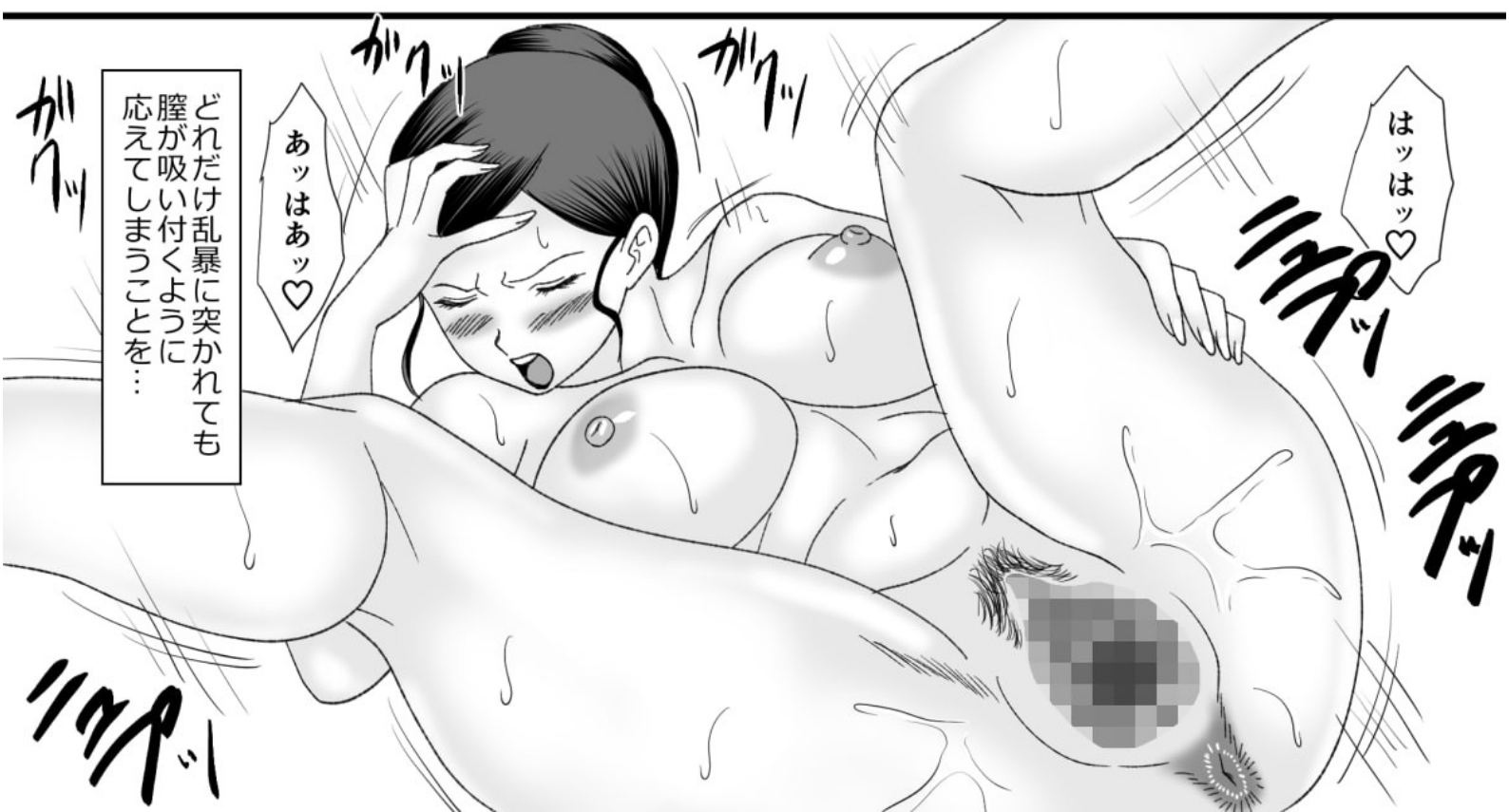


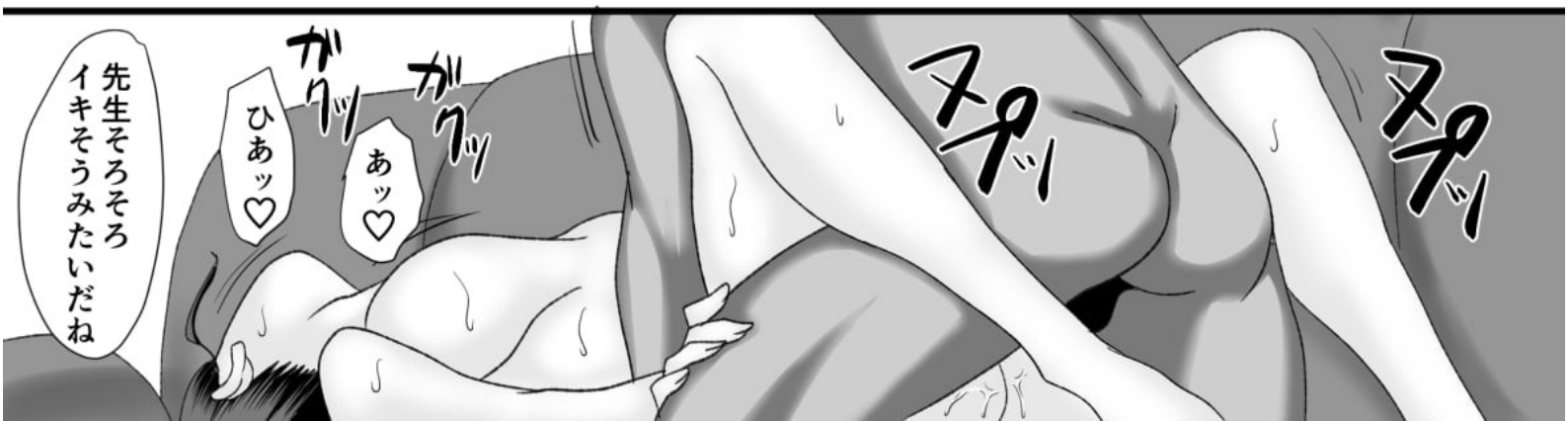
なのに——女としての本能に逆らえず
ただ快楽に服従して生徒のペニスを
受け入れる器になり下がっていく...



間宮君がより一層強く
腰を突き入れ始める頃には...

もはや抗うという言葉は
私の中から消えていた...







おまんこイキたくて
たまらないんだろ？

んっ♡
くうっ♡

ホラ…
手握ってて
やるから
イキなよ…

いいコだ…
そのまま思い切り
イッてみな？

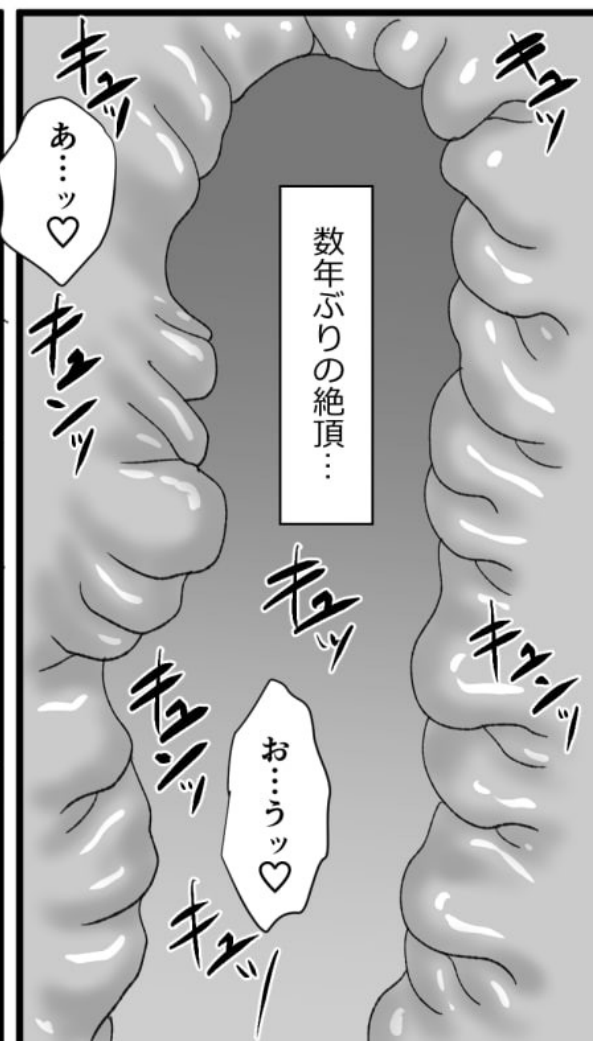
あッ♡

はあッ♡

悔しい…
生徒に小娘扱いされてるのに
従うことで安心感を得てる…

耳元で囁かれる絶頂への誘いに
このままイッていいんだと…

新一…許して…
お母さんイッちゃう…



そんな場所に私は…
何の警戒心もなく
ノコノコやってきて
内側から肉を食い荒らされて…

はあッ♡

あッ♡

はああッ♡
あんッ♡

無様な痴態を晒すうちに
この獣の味を覚えさせられた
従順な餌になってしまった…

奥まで届くペニスを悦んで
締め付けて応えてしまう体…



あうッ♡

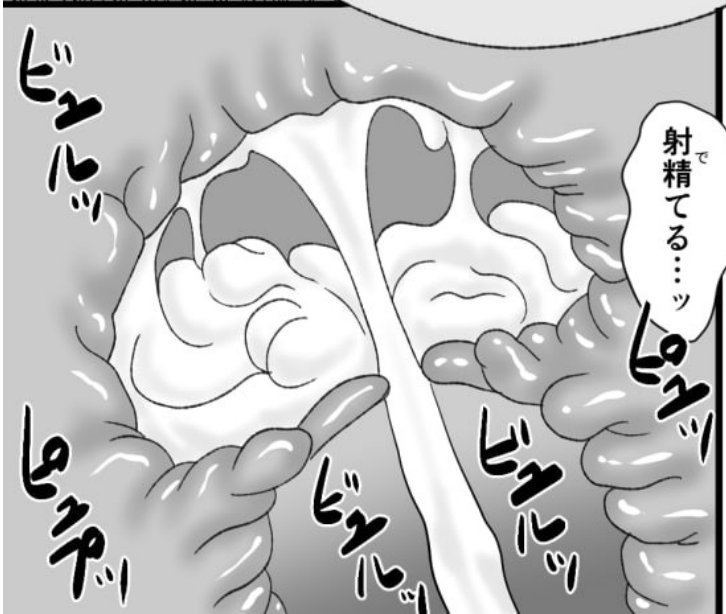
あッ♡

自分がこんなに
浅ましい女だったなんて
知らなかった…

くはッ♡

知りたくなかった…

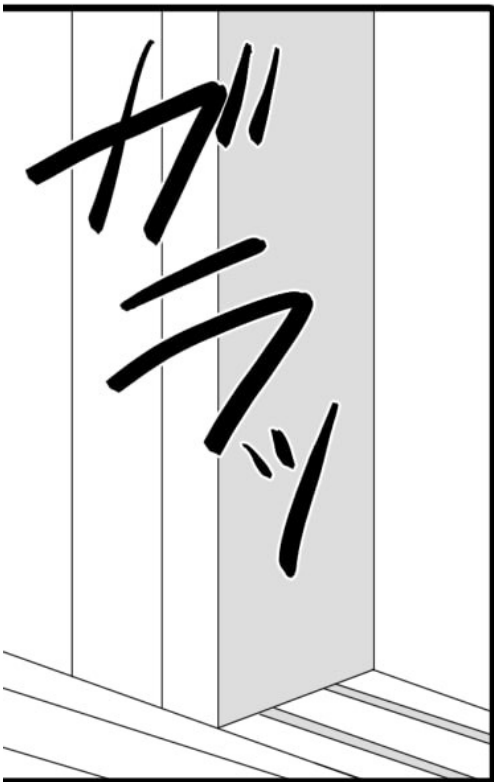








ウソ：
こんなに濃いのを
腔内に注がれただなんて…





おらッ

はううッ♡

ニャルッ

ニャルッ

フッ

あッやあッ♡
また…挿入れ…ッ♡

ニャルッ

あッ♡

はあッ♡

パッパッ

パッパッ

パッパッ

あッ♡
あッ♡

今度こそ無遠慮な行為を拒まなきゃ…
そう思ってるはずなのに…

背後からの深い挿入によって
腰の奥からせり上がってくる
快感に抗えない…

アッ

アッ

パッパッ

まだ絶頂の余韻が残る体の奥まで
間宮君のペニスが届くたびに
女の部分が熱を持つてうねり
自然と絡みついてしまう…



精液をかき出しやすいように作られた形が
奥まで擦り上げるたびに息が詰まり
抜けていったと思った精液のぬくもりまで
またかき混ぜられて蘇る…



体の奥は正直すぎるほどに
快楽を欲しがっていた…

あはあッ♡

しっかりしがみついてないと
頭から落ちちゃうよ…

密着した性交を余儀なくさせる
卑怯なやり方に
思いつく限りの言葉で
罵ってやりたいのに…

あ…くッ♡
卑怯者…ッ♡

口から出る言葉は真逆の…
悦びを表わす女の声だった…

は…ッ
おッ♡

ああお…ッ♡

エサッ

エサッ

あッあッ♡
いやッ♡

私…
また…ッ♡

また…
イッちゃ…ウッ♡

エサッ

ギョッ

エサッ



再び膣内に熱い精液を注がれると同時に迎えた深い絶頂感にシャワーの音すら遠くに感じながら…

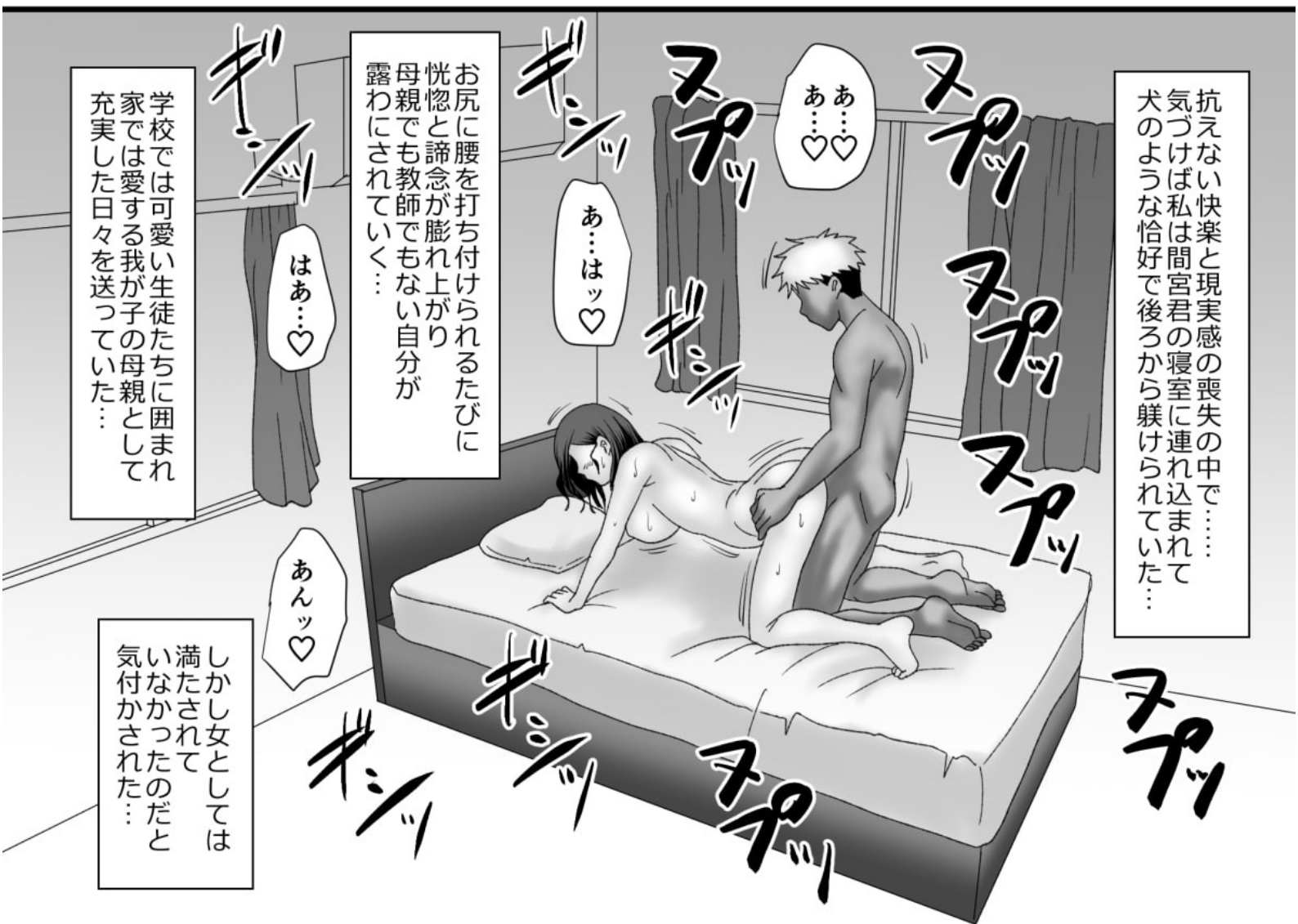
あ…あッ♡

まだ…
出てる…♡

絶頂の余韻に震えながら
間宮君の体にしがみついて
最後の一滴まで受け入れた…

その後も続くセックスを拒むという選択肢をもう二度と取り戻せなくなっていた…







教師の私が…
生徒にベッドで
教えられるなんて…

先生の
ケツの穴
丸見え♪

ひん♡

ヒクヒクさせて
そんな気持ち
いいのかわ?

あッ♡

やッ♡

見ない…でッ♡



もっとよく
見せてみるよ
オラッ

覗かれてる…
最も恥ずかしい部分を
指で広げられて…

あッ♡
いやッ♡

絶対に見られちゃ
いけない相手に…

あッ♡

あッ♡

それでも屈辱のはずなのに
何故か体は昂っていく…



その瞬間：私はもう完全に
女として支配されてることを
思い知らされた：

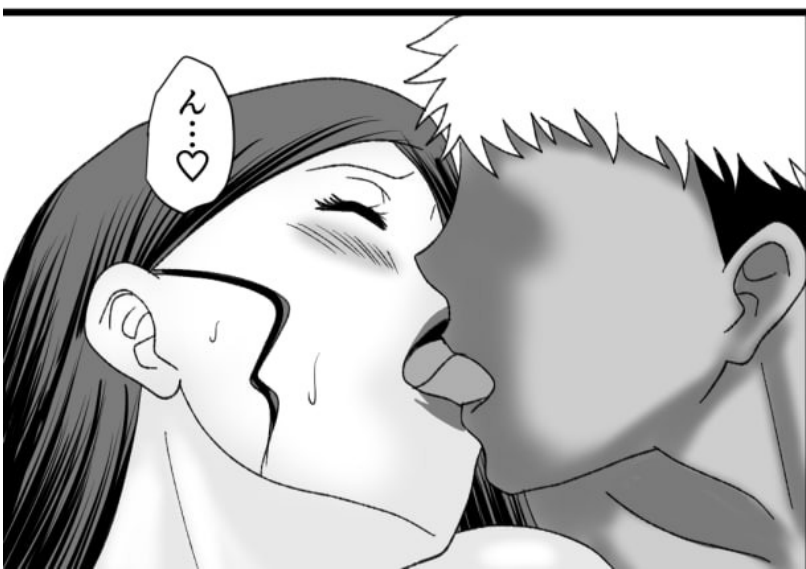


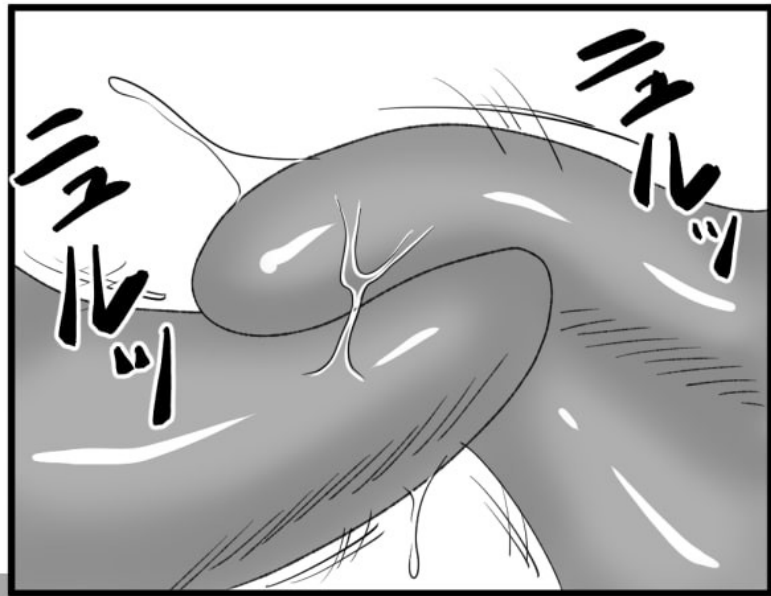
自分でも信じられない：
体だけじゃなく言葉でも
翻らされているのに：



こんなにも長く深く執拗に
まるで逃がさないとでもいうように
密着して私の内側を何度も押し広げてくる
ペニスに体は言葉よりも雄弁に伝えていく：

気付けば体だけでなく
心の深い部分をゆつくりと…
でも確実に浸食されていた：





口内に挿し入れられた舌を
私は拒むことなく受け入れていた…
まるでそれが当然であるかのように…

上下の粘膜が絡み合うたびに
部屋に響く卑猥な音が
さらに気持ちを高ぶらせる…

んっ♡

んっ♡

んっ♡

抵抗の言葉なんて
とうに消えていた…

ふうん♡

パチッ
パチッ
パチッ





3発目イクよ
先生…ッ

あッあッ
あッあッ♡♡

私もまた
イク…ッ♡

イッちゃ…ウッ♡

絶倫という言葉は知っていたけど
この子がそうだったなんて…

イ…ッ
くう…ッ♡

それが分かった時にはもう
膣内に射精されると同時に
絶頂を迎えてしまう体に
作り変えられていた…



あん♡♡

あ♡♡

教えられた…
色んな体位で
女の悦びを…

はあ♡あ♡♡

間宮く…ん♡♡

グググ
グググ

与えられる快楽に震えながら
自分がどうしようもなく
女にされていくのを感じていた…

フッ フッ フッ フッ

あ♡あ♡♡
当たる♡♡

ひいあ♡♡
当たるう♡♡

体位が変わるたびに
奥を突かれるたびに
心の奥にあった
知らない自分が顔を出す…

ギシッ ギシッ

フッ フッ

フッ フッ

フッ フッ



またイッちゃ…うッ♡

イ…ク…あッ♡



あッ♡

あッ♡

ぐっ



あはあああああッ♡

浅ましいほどに啼かされて
抗うことすら諦めていた体は…

注ぎ込まれる精液と絶頂を
腰を揺すって受け入れた…

膣の具合がいいだなんて…生徒にそんなことを言われて屈辱に思ふべきなのに…

ん…♡

ふう…♡

ん…♡

そんな言葉すら愛おしく感じて自分から唇を重ねてしまう…

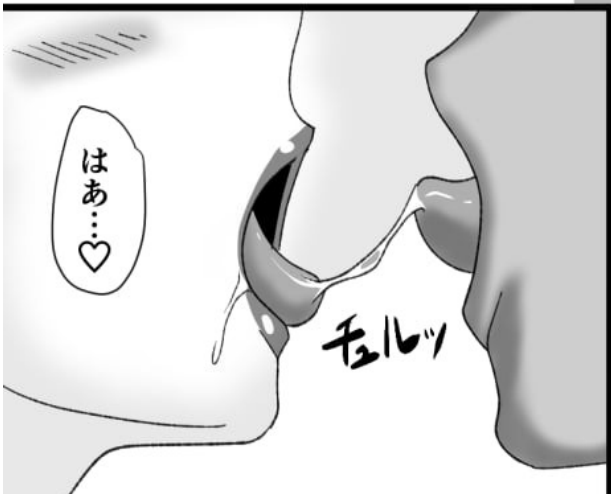
ユザッ

ユザッ

ユザッ



んう…♡



はあ…♡

チュッ



ん♡

チュッ



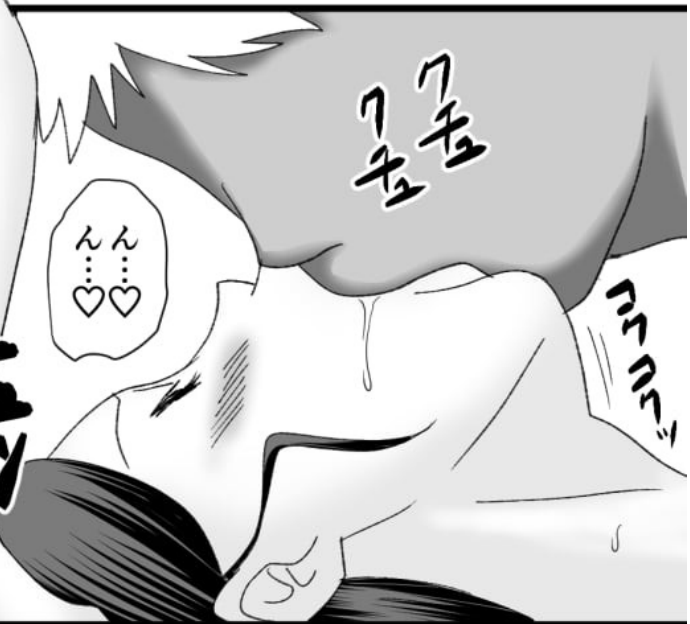
舌を絡ませ唾液を貪り合う…

ん…♡

チュッ

教師としての矜持は熱い体液と一緒に溶かされていった…

ん…♡

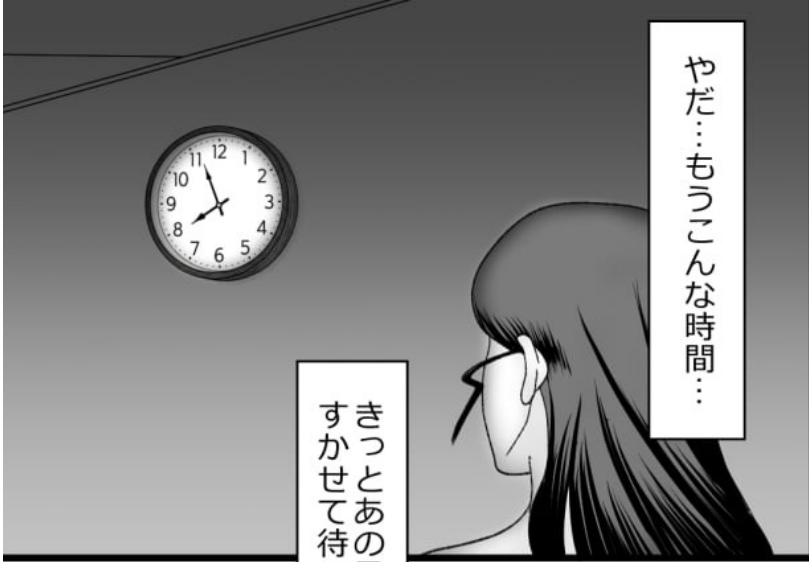
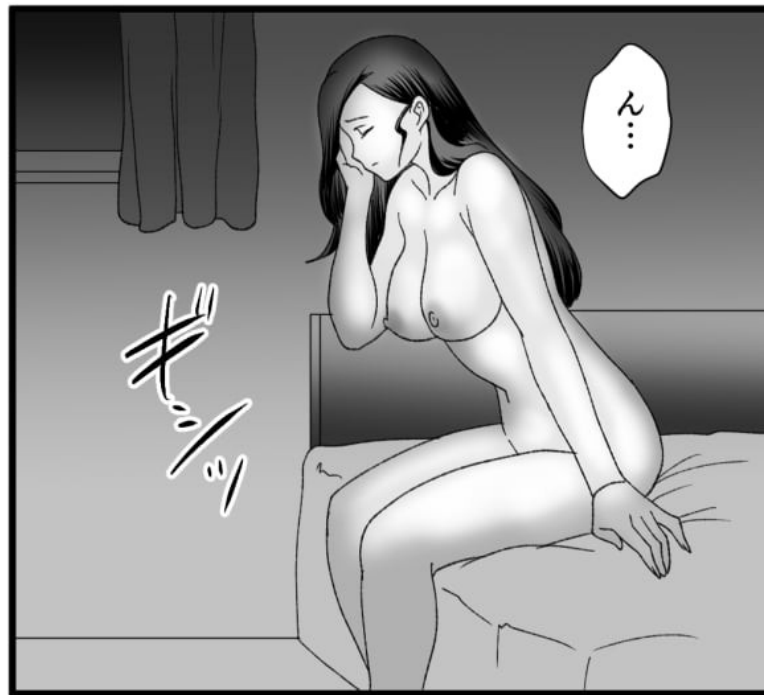


両足を絡めて間宮君の腰を引き寄せて
私は自分の意思で膣奥への射精を許した…



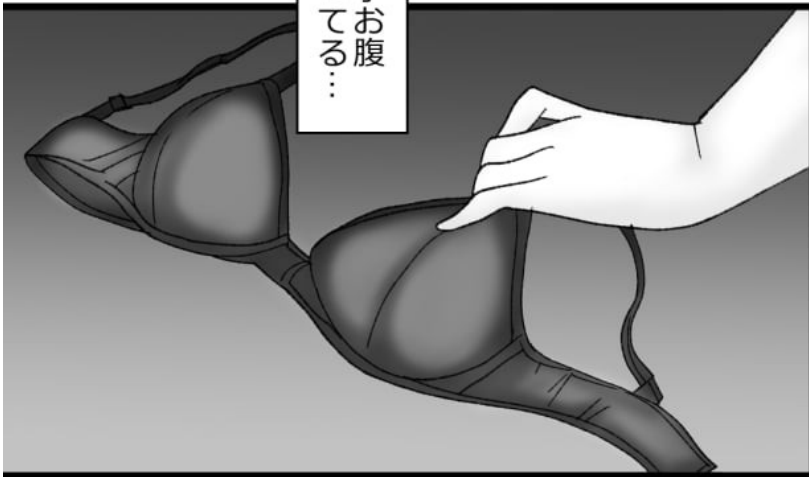
膣内に間宮君の熱を感じながら
私の意識はまどろみの中に
消えていった…





やだ…もうこんな時間…

きつとあの子お腹
すかせて待ってる…



もう遅いから
泊って
いきなよ…

モミ

だめ…
困らせないで…



じゃあせめて
あと一発…

あッ!

だめだってばッ!!



先生…
帰るの?

きやッ!!





罪悪感が…間宮君の体の重みと重なって
肌にのしかかり身動き取れない…

あの子が待つ家にどんな顔で
帰ればいいのか…
なんて言い訳しようか…

あん…♡

あ…♡

あ…♡



あひっ♡

そんな現実的な思考は
膣内に注がれた瞬間
溶けて消えていった…

考えようとした言い訳より
子宮に届いた熱の方が
ずっと説得力があった…

あ…♡

あ…♡

あったかい…♡



ホント
ごめん…ッ

僕もうおなか
ペコペコだよ

やっと帰ってきた…

すぐご飯
作るから…ッ



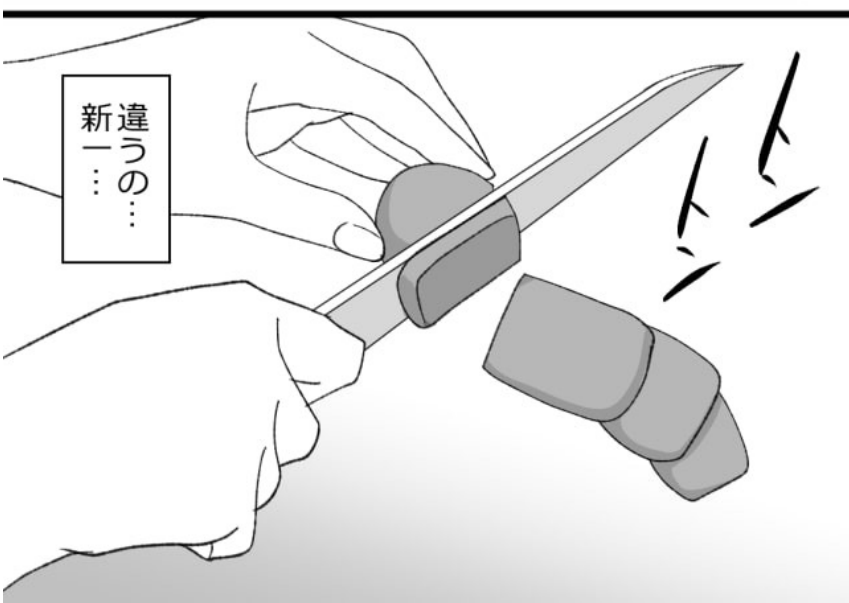
ただいま…ッ
遅くなってごめんね…ッ



家庭訪問
どうだった？

えッ!?

あいつの親に
ガツンと
言っちゃった？



違うの…
新一…



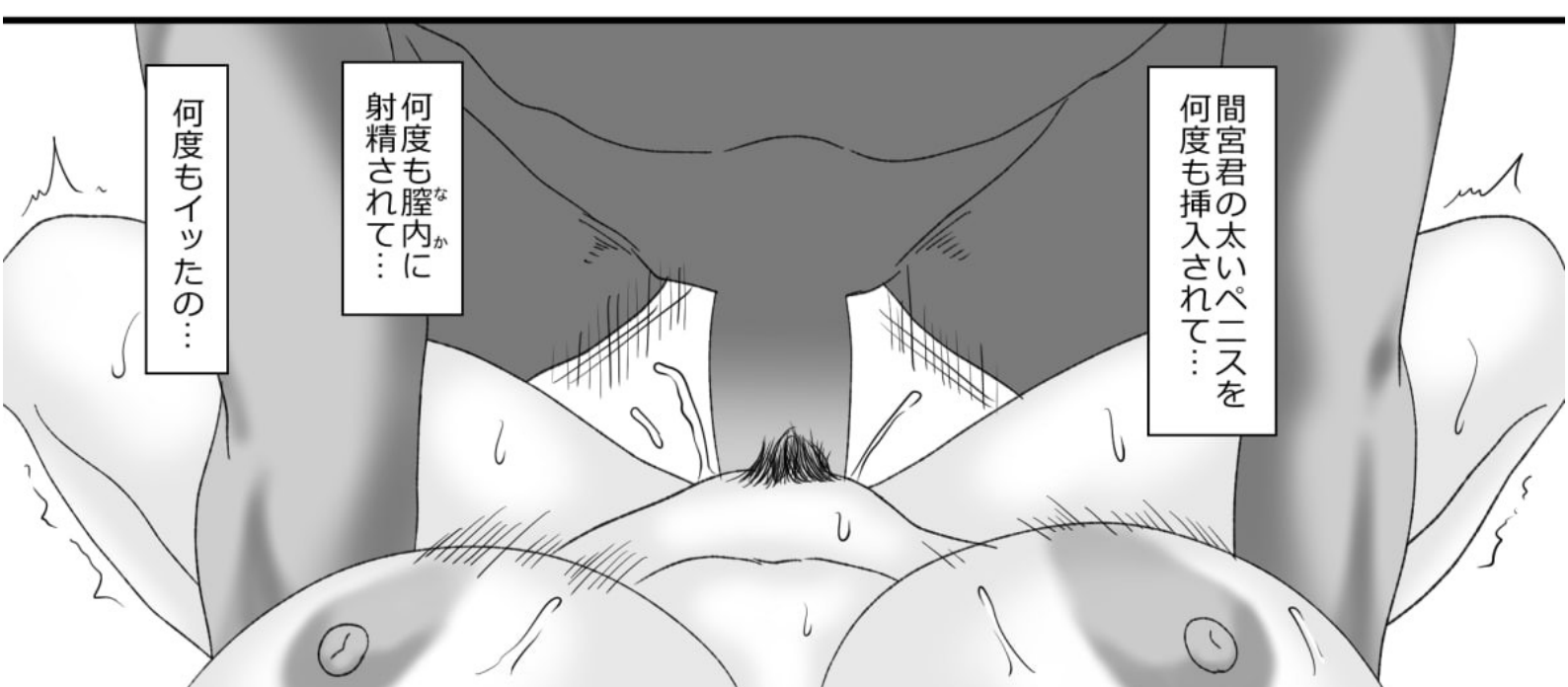
え…ええ…
間宮君も態度を
改めるって…

やったね！
さすが母さん！



お母さんね…
間宮君に…

あなたをいじめた子に
征服されてきたの…



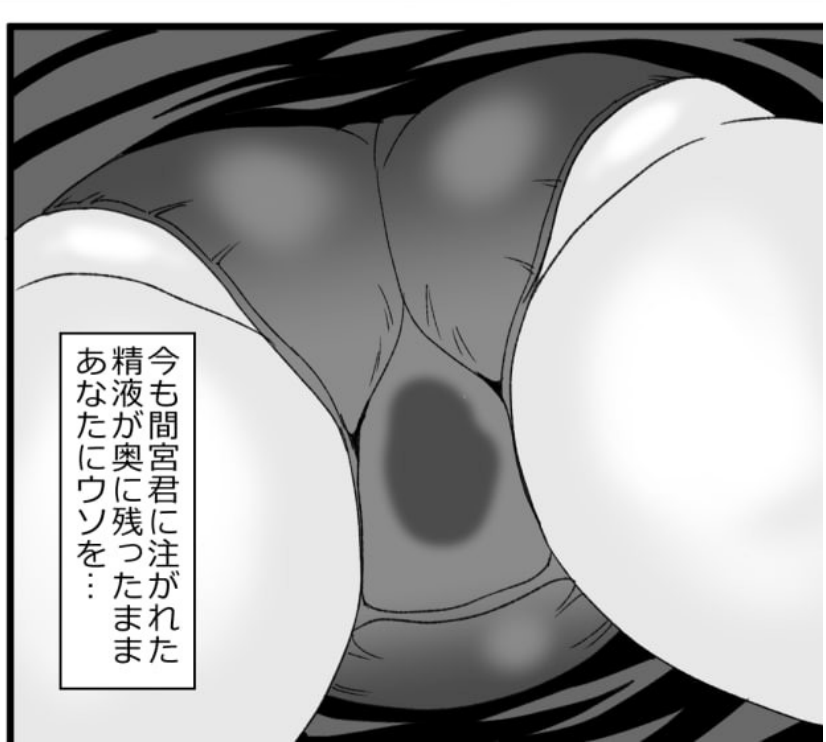
間宮君の太いペニスを
何度も挿入されて…

何度も膣^な内に
射精されて…

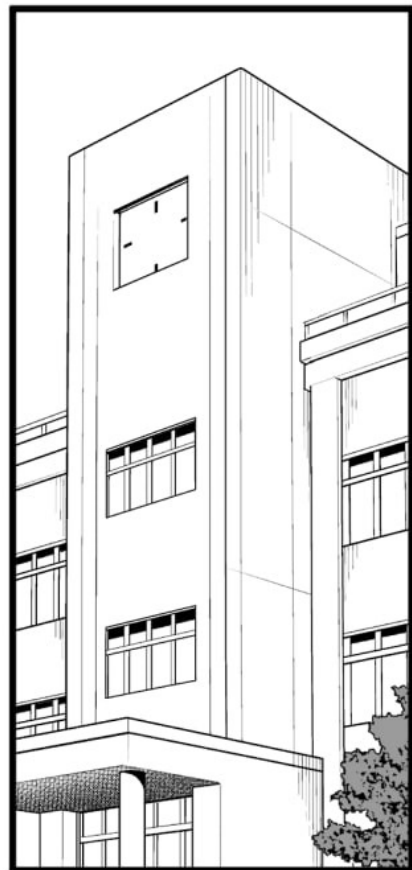
何度もイッたの…



ふしだらな
お母さんを
許して…



今も間宮君に注がれた
精液が奥に残ったまま
あなたにウソを…



俺に色んな体位で
男日照りのご無沙汰マンコを
かき回されて
イクを連発してたってさ…

あッあッ
あッあッ

それスゴイッ♡

イクイクッ♡

奥でまた
イッちゃうッ♡

…!!

ビュン

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

私を脅す気ッ!?

先生が聞き分け
ないからだろ…

モ…

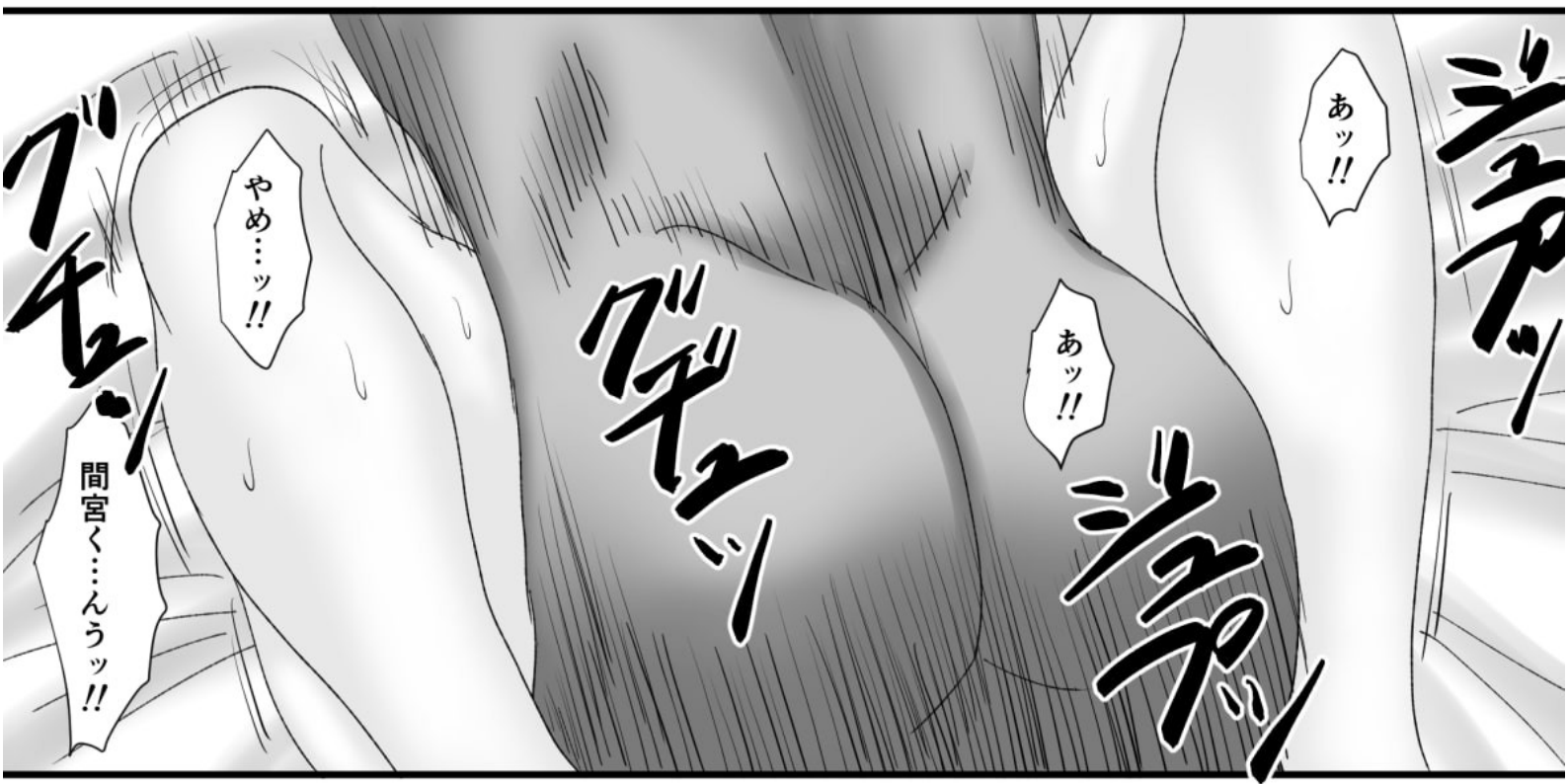
あ…あの子が
信じるワケ…ッ

へえ…じゃあ
試してみる?

ギョッ

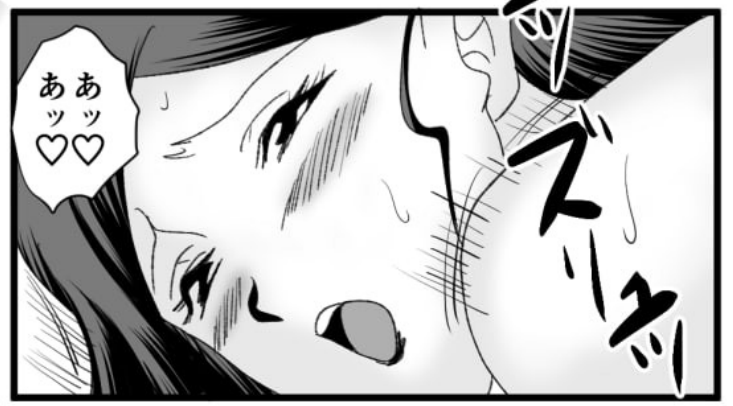
どうする?
先生…

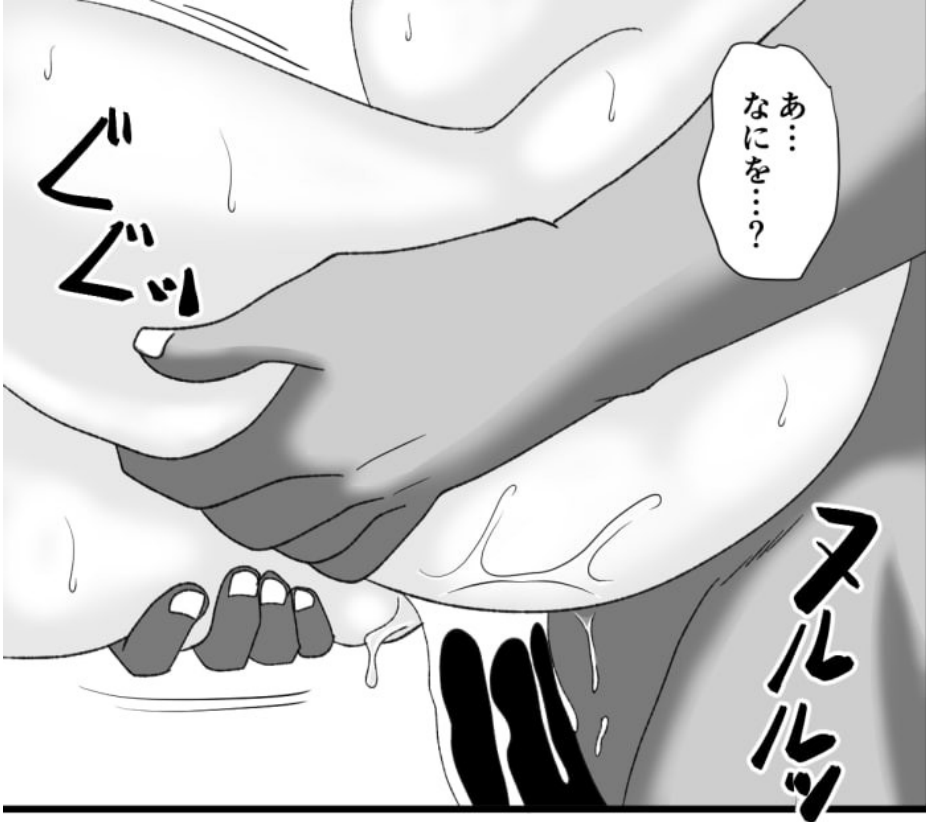
…ッ!!















あッ♡
あッ♡

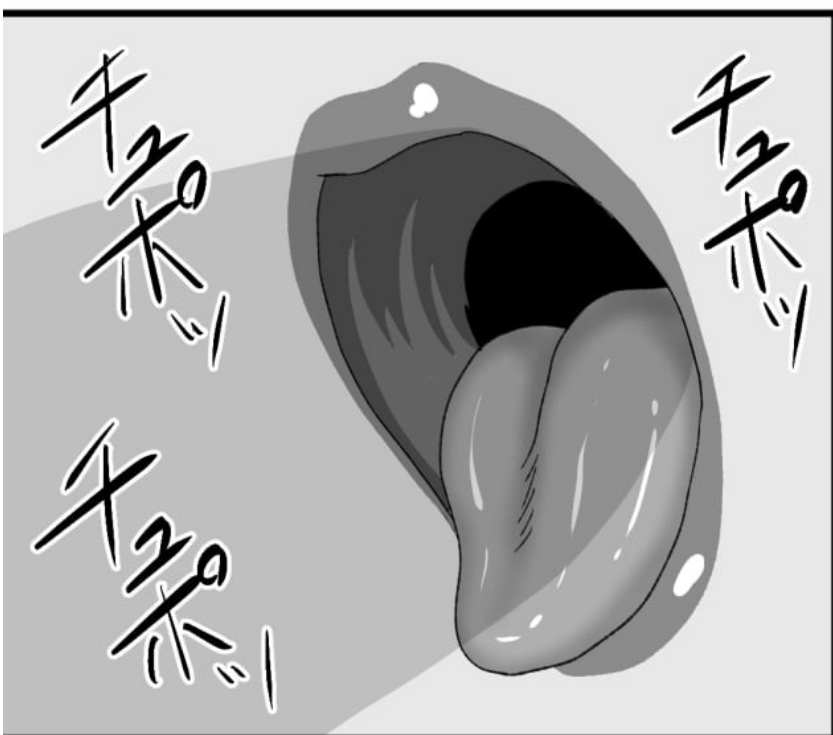
イックウッ♡

私…もう…ッ♡

私…もうダメ…ッ♡

敗北の声を上げながら
子宮に注がれる精液と共に
体を襲う快楽の濁流に
飲み込まれてイッた…









満たされたい欲求と
私を見てくれているという
承認欲求が溶け合っていく…

俺たちが繋がってる
部分見える？

あ…見え…る…♡

すごく
いやらしい…♡

間宮君と繋がっている—
その事実がこれ以上なく
自分の中の女を意識させた…

ゴシッ
ゴシッ

フシッ
フシッ

ヌグッ
ヌグッ

ヌグッ

ヌグッ

もう生徒に
オマンコされて
感じるの
隠さなくなったね

あッ♡

やッ♡

言わないで…ッ♡

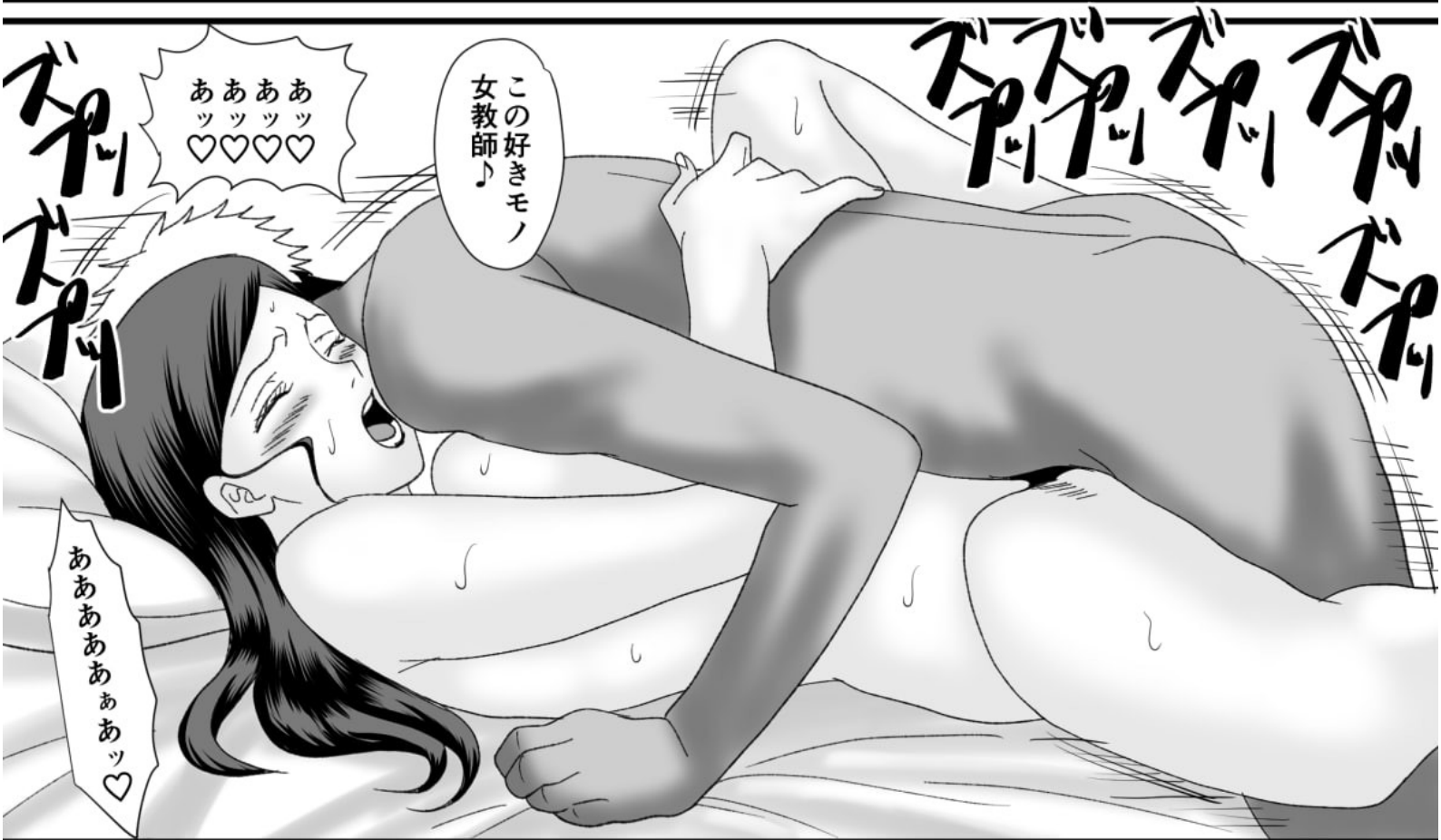
あッ♡

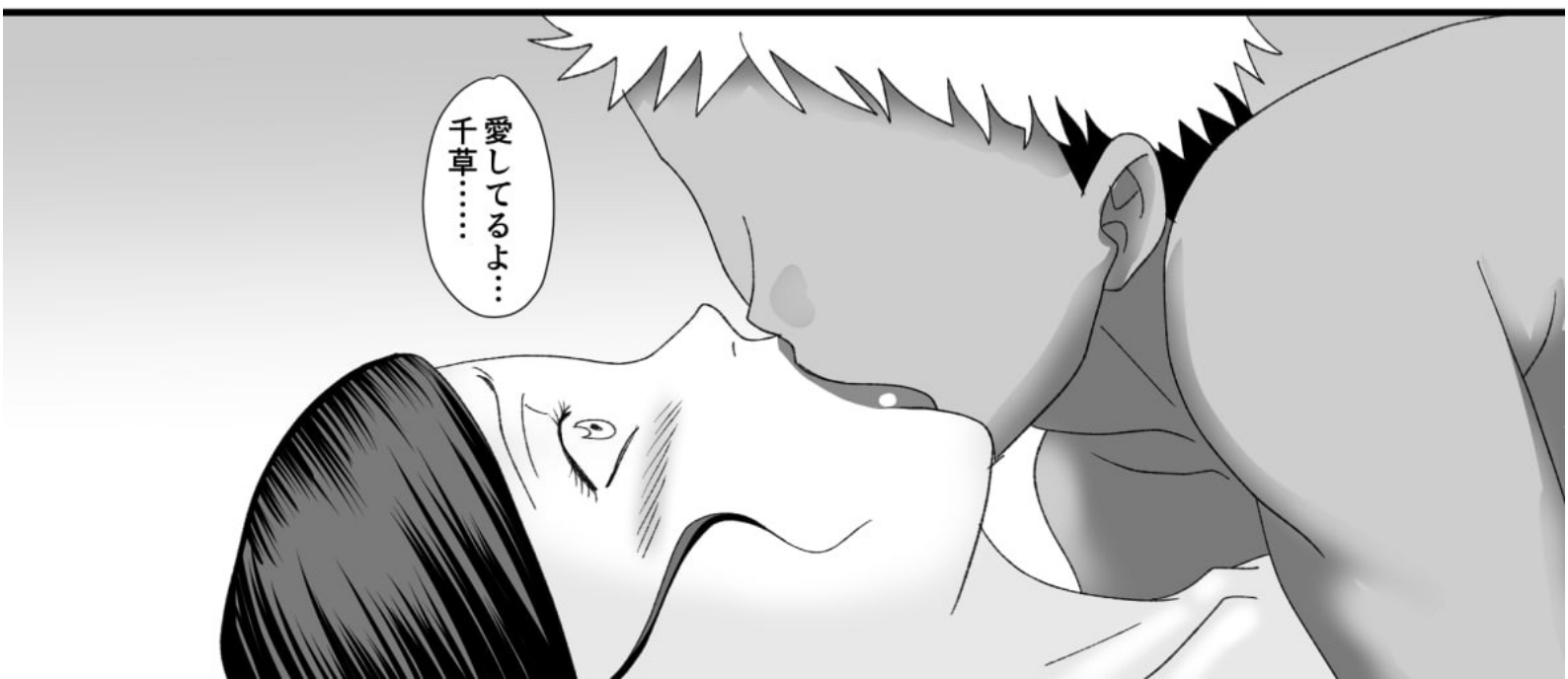
あッ♡

クヒッ

ズルッ
ズルッ
ズルッ

ヌグッ





「愛してる」—そんな言葉
信じちゃいけないのに…

心のどこかでずつと誰かに
そう囁いてほしかった…

クチュ

……ッ!!

クチュ

んッ♡

んッ♡

んうッ♡

ズン

ふうんッ♡

んううッ♡

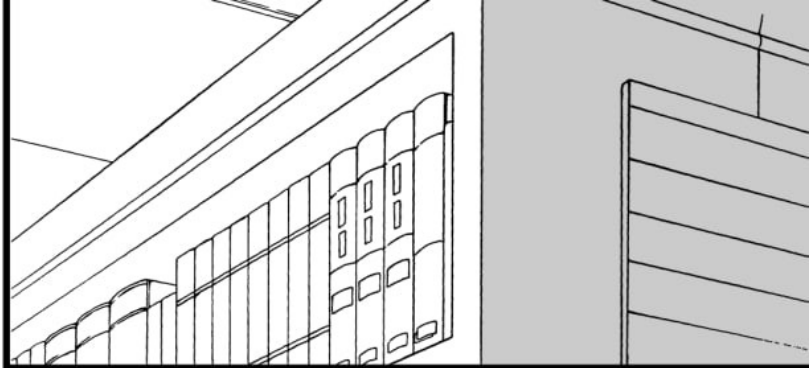
ドドン

ドドン

ドドン

「母さん」でもなく「先生」でもなく
自分だけの名前を呼ばれながら
挿し込まれたペニスが深い所で
弾けた瞬間…

心まで抱かれた私は
間宮君の女になった…



言いつけは
守ってきたか？
千草…

間宮君…お願い…
下着を着けさせて…



そんなこと言って
もう濡れてるじゃん

や…やめなさい…ッ

くちゅ くちゅ



こんな朝っぱらから
図書室に来る奴
なんていねえよ…

でも誰か
来たら…



ホラ…
ハメてやるから
ケツ向けろよ…

えッ!?
待ってッ!!

ここですのッ!?



濡れていた…
ろくに愛撫もされていないのに
間宮君の太いペニスを根元まで
受け入れられるほどに…

はあッ♡

あッ♡

はんッ♡

カクッカクッ

あ…くッ♡

ポッポッ

私の体はいつ何処でも間宮君を
迎える器として作り変えられたのだと
ハッキリと自覚させられた…

あんんッ♡

グニッ

イクぞッ
千草ッ!

全部受け止めるよッ!!

やッあッ♡

あッ♡

そと…にッ♡

その事実が悔しいほどの
快感と共に私の中を
何度も満たしていく…

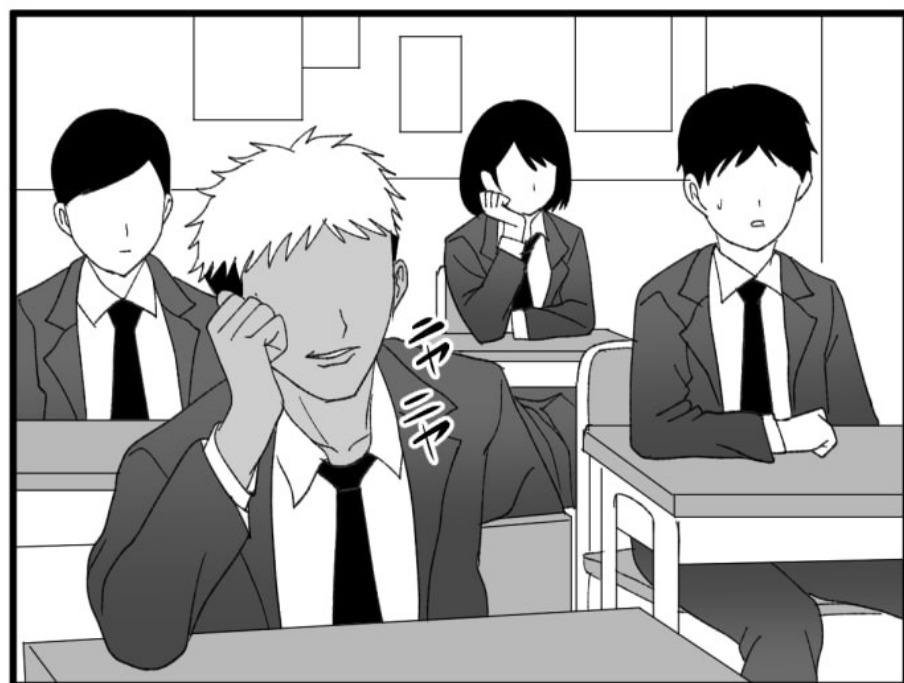
あッ♡

グッ
グッ

グッ

グッ
グッ
グッ





かつてあの子に授乳した乳房で
間宮君のペニスに奉仕することに
罪悪感を覚えながらも…

胸をこんな風に
使うなんて…

男の子って
こういうのが
気持ちいいの？

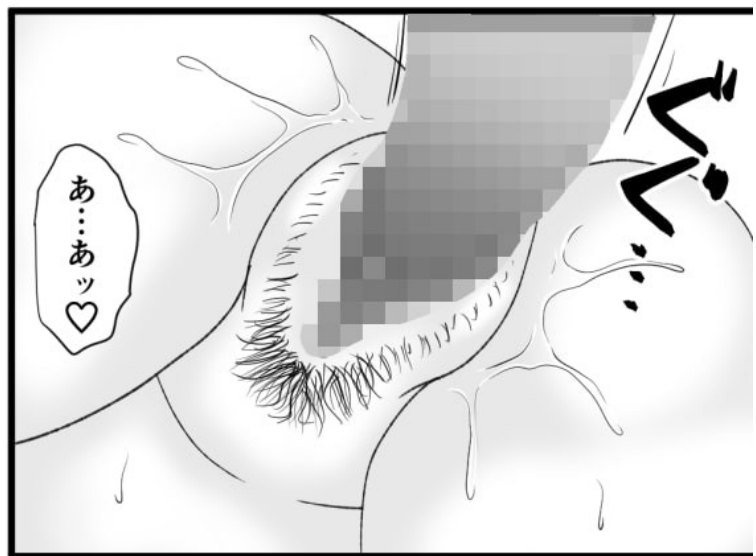
それでも間宮君に尽くすことに
悦びを感じるまでになっっていた…

前から千草に
パイズリして
もらいたかったから
すげえ気持ちいいよ…

せっかくイイ乳
持つてんだから
使わないとな…

もう…変態
なんだから…





無理やり関係を結ばされた肉体は
いつの間にか馴染んで
それに適応するかのうちに心まで
少しずつ形を変えていった…

千草のオマンコ
たまんねえッ!!

あッあッ♡

ひあッ♡

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ

どぴゅっ
どぴゅっ
どぴゅっ

どぴゅっ
どぴゅっ
どぴゅっ

どぴゅっ
どぴゅっ
どぴゅっ

あれほど拒んでいた
膣内射精すら
悦んで受け入れる
ようになっていた…

間宮君ッ♡

きてッ♡

きてえッ♡

あ…ッ♡
あ…ッ♡

あったかい…ッ♡

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ギンッ
ギンッ
ギンッ





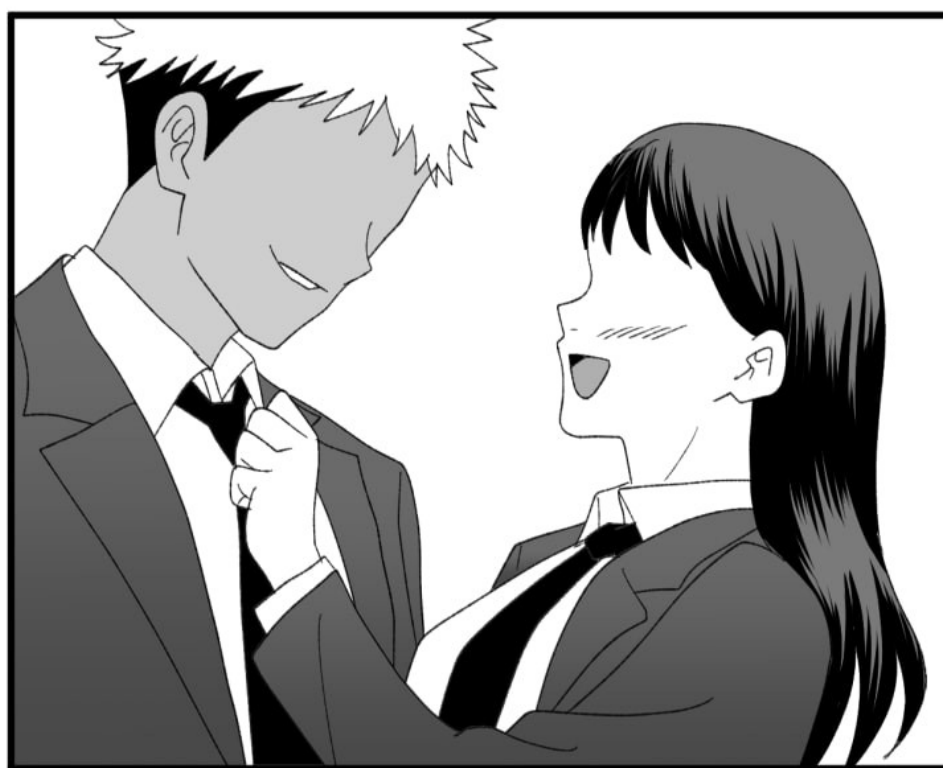
あれは間宮君と…
吉岡さん…？



！



……



ギシッ

あッ♡

はあッ♡

ん♡♡

ギシッ

あん♡♡

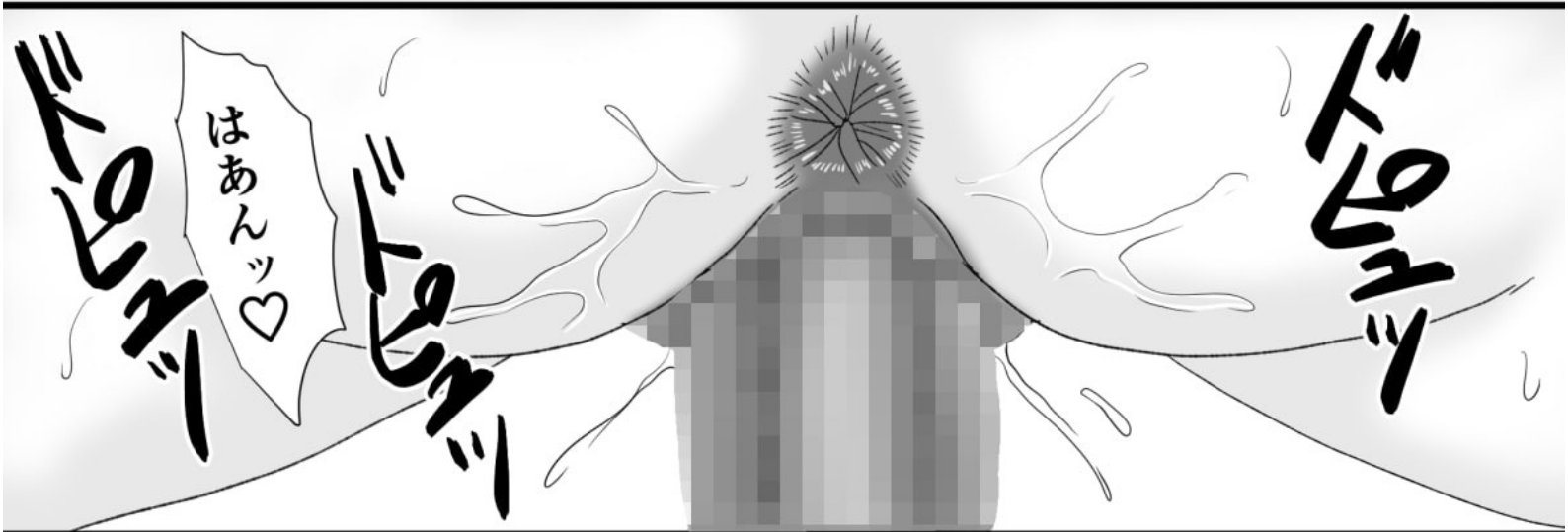
は♡♡

は…♡♡

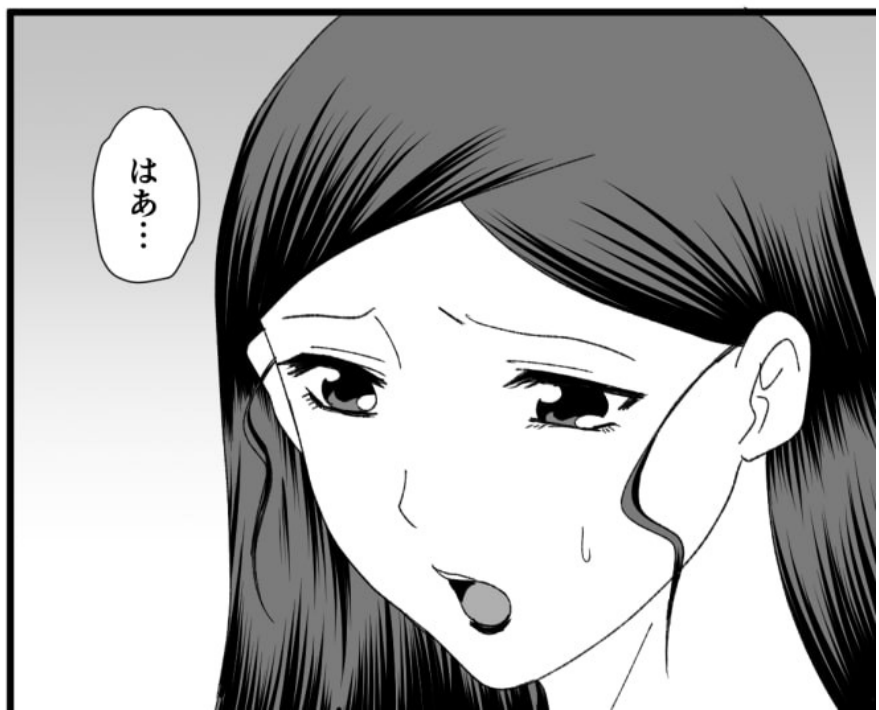
ギシッ

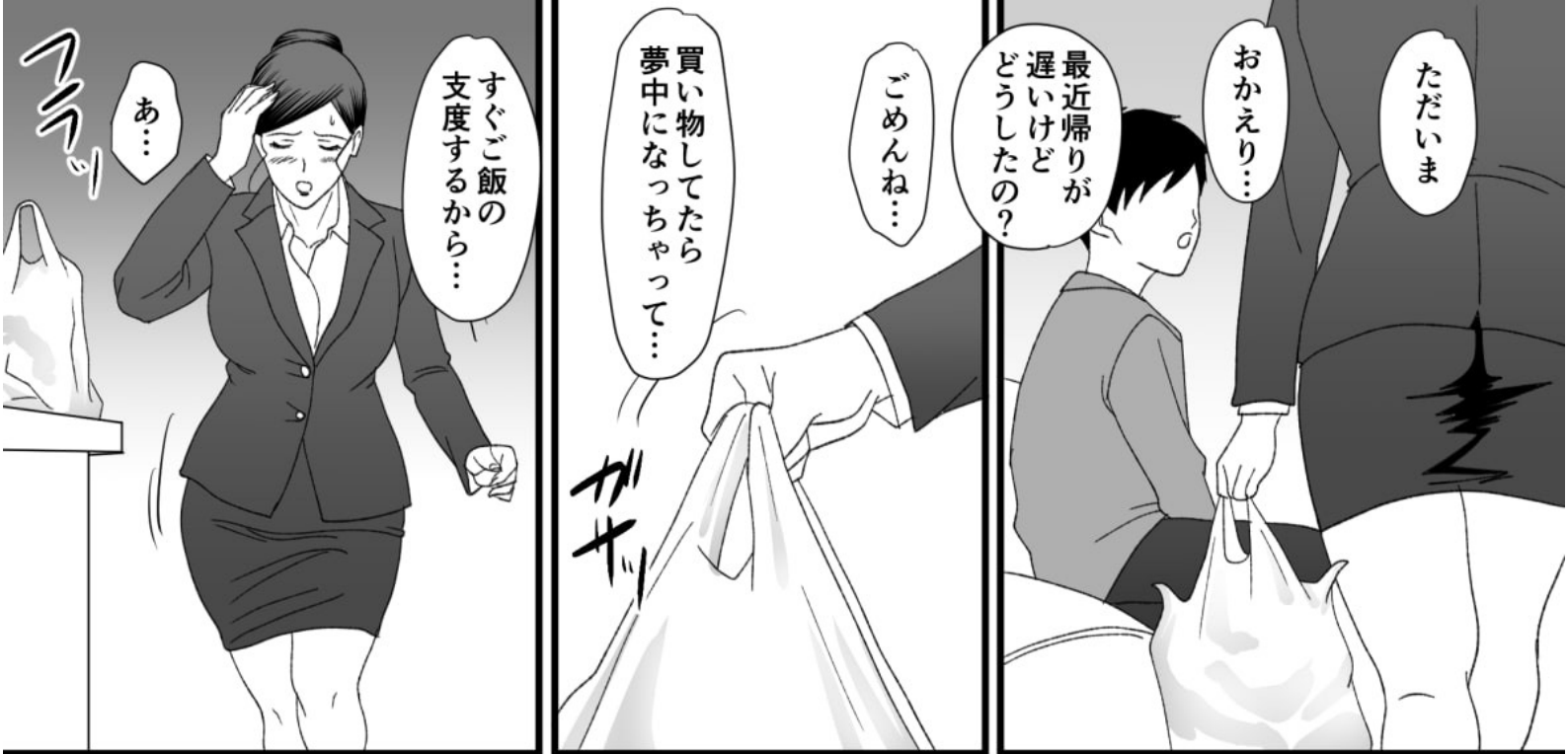
ギシッ

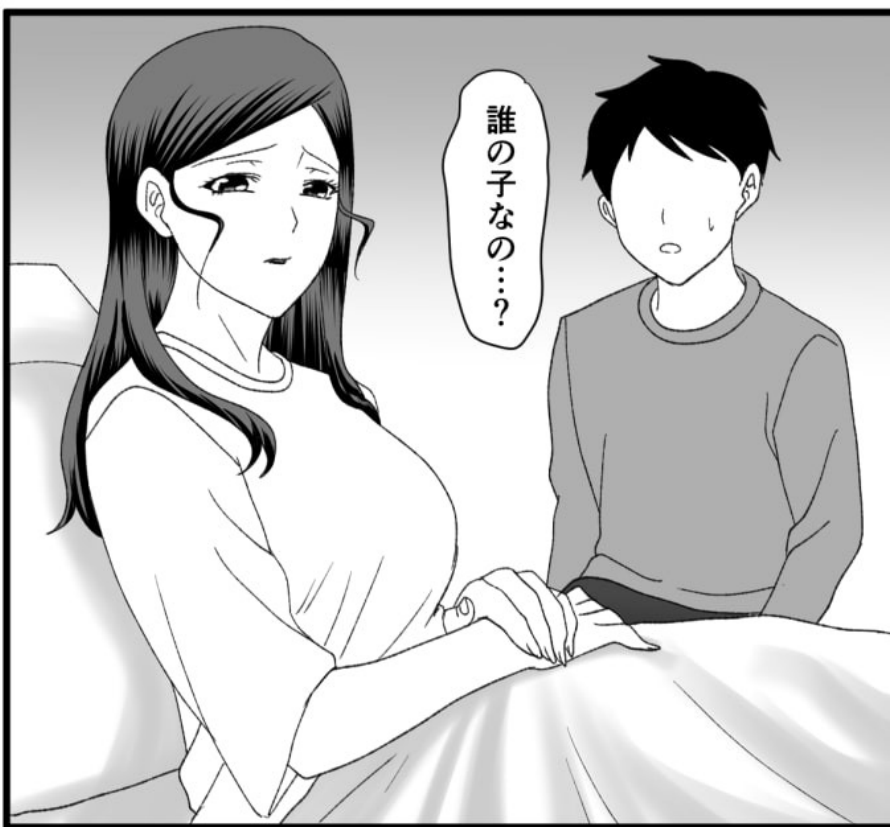
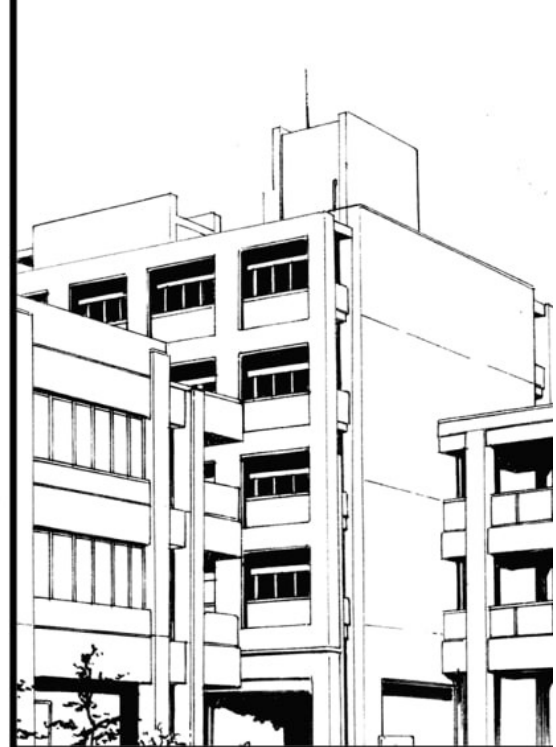
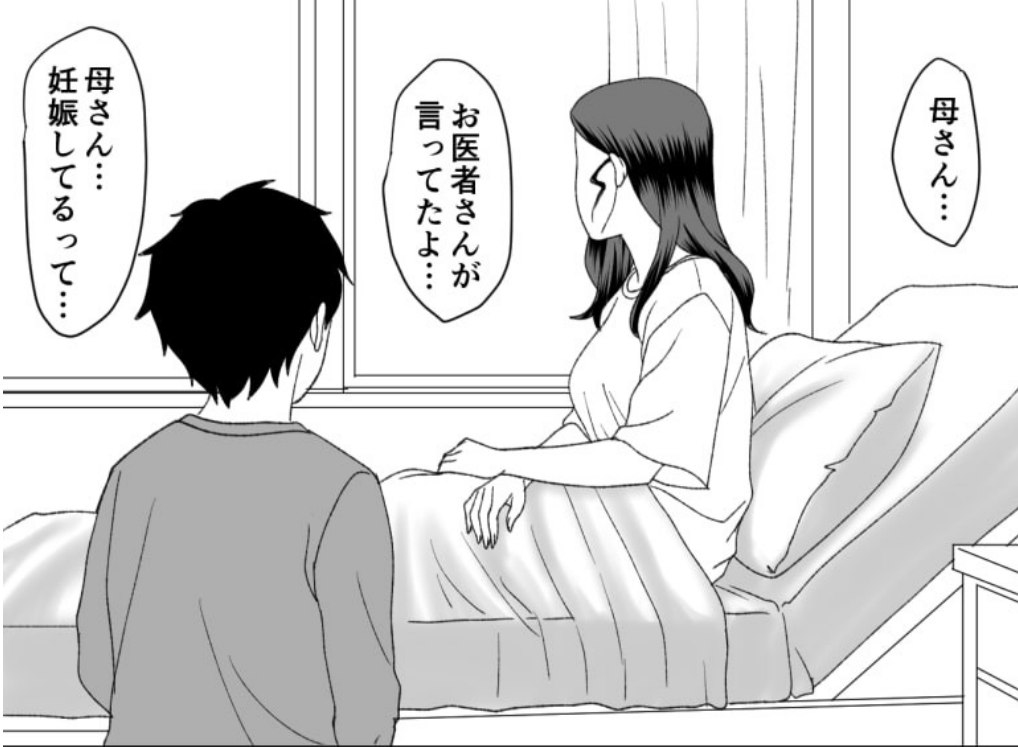
ギシッ











なんで…ッ!?

どうして
あんな奴とッ!?

母さんは全てを話し始めた…

間宮の家に家庭訪問に行ったあの日…
あいつと男女の関係になってしまったこと…

いけないことだとわかっていたけど
僕にバラされたくなくて言われるがままに
関係が続けてしまったこと…

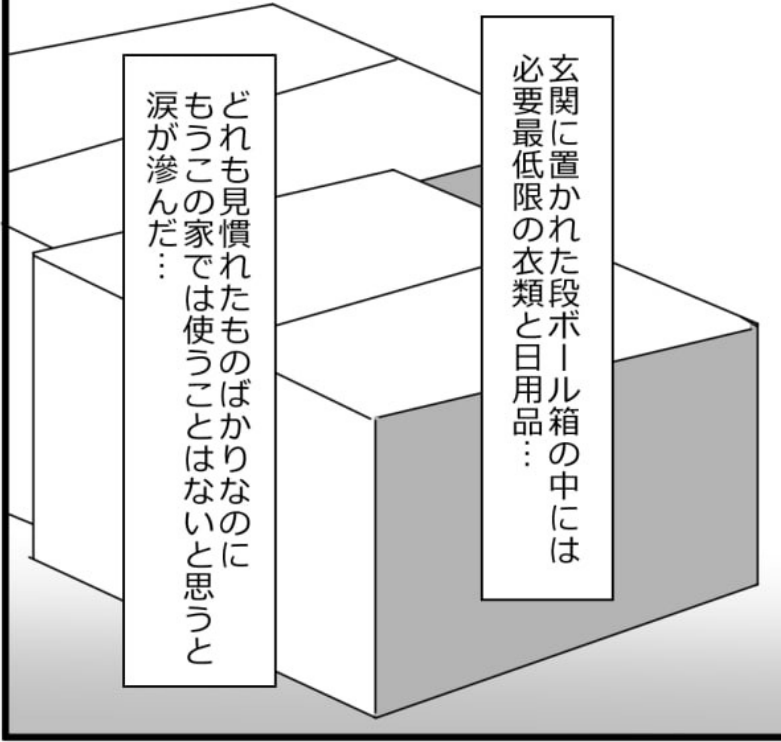
そして何度も抱かれていたうちに
間宮から離れられない体にな
ってしまったこと…

ごめんね…
新一…

でも間宮君のこと
愛してるのッ!!

どうしようも
ないくらいッ!!

僕は何も言えなかった…



玄関に置かれた段ボール箱の中には
必要最低限の衣類と日用品…

どれも見慣れたものばかりなのに
もうこの家では使うことはないと思うと
涙が滲んだ…



無理しないでね…

ちゃんと食べるのよ…

リビングからかすかに聞こえる
いつもの母さんの優しい声…



でももう二度とその言葉を
まっすぐには受け取れない…

うん…

僕をいじめた間宮にいつの間にか
母さんを孕まされていた現実に
耐えられず僕は産むのに反対した…



それなのに母さんは
間宮の子を産むと
譲らなかった…

愛する人の子を産みたい…
母さんのその言葉が
僕の居場所を奪った…



そして僕は
家を出ることを
決心した…

すると入れ替わるように
間宮があの家に住み着いた…

もうあの家は
帰る場所じゃない…

あッ♡

あんッ♡

母さんとの思い出が
詰まったあの家は…

あひッ♡

イイッ♡

二匹の獣の棲家になった…

あッあッ♡

もっとキテエッ♡

間宮くんッ♡

キュルッ

ンあッ♡

イクッ♡
イクッ♡

またイクウッ♡